

# 資料編

1. 調査票見本
2. 調査結果
3. 自由記述

## 1. 調査票見本

--	--	--	--

# 教育に関するアンケート

### <お願い>

このアンケートは、全国の小学校教員の皆さまの教育意識と意見をお聞きし、これからの教育に役立てる貴重な資料にするものです。お答えいただいた内容は、統計的に処理し、個人のお名前が出るようなことはありません。お忙しいところ恐縮ですが、ご協力いただきますようお願いいたします。お答えいただいたアンケートは令和3年11月30日までに、返信用封筒に入れ、ご返送ください。報告書の必要な方にはお送りします。

<問い合わせ先> 公益財団法人 中央教育研究所  
〒114-0004 東京都北区堀船 2-17-1  
TEL (03)5390-7488 FAX (03)5390-7489  
メールアドレス chu-ken@nifty.com

ご回答はそれぞれ、先生のお考えの近いものの番号に○を付けてください。また、自由記入欄にお書きください。

子どもについてお聞きます。

Q1 現在教えている子どもについて、先生ご自身が次のように感じることはありますか。

	よくある	時々ある	あまりない	ぜんぜんない
A 学力が低下している	1	2	3	4
B 学ぶ意欲が低下している	1	2	3	4
C できる子どもとできない子どもの分化が進んでいる	1	2	3	4
D 落ち着きのない子どもが多くなっている	1	2	3	4
E わがままな子どもが多くなっている	1	2	3	4
F 指導が難しい子どもが多くなっている	1	2	3	4
G 家庭でのしつけのできていない子どもが多くなっている	1	2	3	4
H 素直な子どもが多くなっている	1	2	3	4
I 人にやさしい子どもが多くなっている	1	2	3	4
J 将来に向けて努力する子どもが多くなっている	1	2	3	4
K 情報機器（パソコン、タブレット、スマホ等）に長けた子どもが多くなっている	1	2	3	4

Q2 現在の子どもの特徴に対して、先生が指導上、特に留意している点はどのようなことですか。

教科書についてお聞きします。

Q3 次の教科の授業では、教科書をどのくらいの頻度で使います（しました）か。

	毎時間必ず使う	使わない時よりも 使うことの方が多い	使う時よりも 使わないことの方が多い	ほとんど使わない
国語	1 .....	2 .....	3 .....	4 .....
社会	1 .....	2 .....	3 .....	4 .....
算数	1 .....	2 .....	3 .....	4 .....
理科	1 .....	2 .....	3 .....	4 .....
生活	1 .....	2 .....	3 .....	4 .....
音楽	1 .....	2 .....	3 .....	4 .....
図画工作	1 .....	2 .....	3 .....	4 .....
家庭	1 .....	2 .....	3 .....	4 .....
体育（保健）	1 .....	2 .....	3 .....	4 .....
特別の教科 道徳	1 .....	2 .....	3 .....	4 .....
外国語	1 .....	2 .....	3 .....	4 .....

Q4 教科書を使用する（した）理由として、以下の項目にはどのくらいあてはまりますか。

	とてもそう	ややそう	あまり そうでない	ぜんぜん そうでない
A 難易度が適切である	1 .....	2 .....	3 .....	4 .....
B 基礎、基本を網羅している	1 .....	2 .....	3 .....	4 .....
C 発展的な内容を含んでいる	1 .....	2 .....	3 .....	4 .....
D 教材量が適切である	1 .....	2 .....	3 .....	4 .....
E 学習指導要領の目標にもとづいている	1 .....	2 .....	3 .....	4 .....
F どのようなレベルの子どもにも、使いやすいものになっている	1 .....	2 .....	3 .....	4 .....
G 子どもの興味関心に適した内容を含んでいる	1 .....	2 .....	3 .....	4 .....
H 現在使っている教科書に満足している	1 .....	2 .....	3 .....	4 .....

この春より、小学生に「1人1台」、パソコンやタブレットなどの端末機器が配布されています。

Q5-1 その端末ではA～Iのようなことは、先生の所属の学校で現在実施できますか。

A	児童一人一人の学習過程の記録の分析	1. できる	2. できない
B	児童の学習過程の記録を保護者と共有	1. できる	2. できない
C	YouTube の閲覧	1. できる	2. できない
D	インターネット等による資料の収集	1. できる	2. できない
E	画像や動画等の共有	1. できる	2. できない
F	端末を家庭に持ち帰っての使用	1. できる	2. できない
G	端末による家庭学習の提出	1. できる	2. できない
H	使用にあたっての保護者のサポート	1. できる	2. できない
I	端末を使用したオンライン授業	1. できる	2. できない

Q5-2 またそれは、小学校の教育活動に必要なだと思いますか。  
それぞれに、あてはまる番号1つに○を付けてください。

	とても必要	やや必要	あまり必要でない	まったく必要でない
A	1	2	3	4
B	1	2	3	4
C	1	2	3	4
D	1	2	3	4
E	1	2	3	4
F	1	2	3	4
G	1	2	3	4
H	1	2	3	4
I	1	2	3	4

Q6 児童に配布された端末機器を用いて学習活動を行う際に、各教科領域等によって活用のしやすさに差があるでしょうか。それぞれの教科について、あてはまる番号1つに○を付けてください。

	活用しやすい	どちらかといえば 活用しやすい	どちらかといえば 活用しにくい	活用しにくい	活用したことはない
国語	1	2	3	4	5
社会	1	2	3	4	5
算数	1	2	3	4	5
理科	1	2	3	4	5
生活	1	2	3	4	5
音楽	1	2	3	4	5
図画工作	1	2	3	4	5
家庭	1	2	3	4	5
体育（保健）	1	2	3	4	5
外国語	1	2	3	4	5
特別の教科 道徳	1	2	3	4	5
外国語活動	1	2	3	4	5
総合的な学習の時間	1	2	3	4	5
特別活動	1	2	3	4	5

Q7 これからの小学校の英語教育について、どのようなお考えをお持ちですか。  
先生の考えの近い番号に○を付けてください。

	とてもそう	ややそう	あまり そうでない	ぜんぜん そうでない
A これからのグローバル化社会では、国際共通語としての英語の習得がますます重要になる	1	2	3	4
B 英語はなるべく、早い段階（低い年齢）から、教えた方がよい	1	2	3	4
C 英文の読解や文法より、英語で会話できる力を養うべきだ	1	2	3	4
D 英語の授業を英語で行う	1	2	3	4
E 外国人教師による授業を増やす	1	2	3	4
F これからは、英語以外の外国語も、学校で学べるようにした方がよい	1	2	3	4
G 小学校に英語教育を導入するより、国語教育に力を入れるべきだ	1	2	3	4
H 教科としての英語では4技能（聞く、話す、読む、書く）の育成に重点をおくべきだ	1	2	3	4
I 小学校の英語は評価をする必要はない	1	2	3	4
J 現行の外国語活動・外国語の時間数を、それぞれ週2時間、週3時間に増やす	1	2	3	4
K 英語は日本語と発音、構造などが違うことを、子どもに気付かせることが重要である	1	2	3	4

子どもの学力や学習環境についてお聞きます。

Q8 子どもの全体の学力に差が生じるのは、入学後いつ頃からだと思いますか。

1. 入学当時      2. 1年生～2年生      3. 3年生～4年生      4. 5年生～6年生

Q9 学校以外の場で子どもの学力に差を生じさせる要因として、次のことは影響していると思いますか。

A～Gのそれぞれについて、お答えください。

	とても影響 している	やや影響 している	あまり影響 していない	ぜんぜん影響 していない
A 子どもの生まれながらの能力	1 ……	2 ……	3 ……	4
B 保護者が教育熱心なこと	1 ……	2 ……	3 ……	4
C 保護者が子どもの学力への期待が高いこと	1 ……	2 ……	3 ……	4
D 子どもが塾、家庭教師、通信教育、稽古通いをしていること	1 ……	2 ……	3 ……	4
E 保護者自身が、(生涯)学習意欲が高いこと	1 ……	2 ……	3 ……	4
F 地域全体の教育環境	1 ……	2 ……	3 ……	4

G その他 (具体的に書いてください)

Q10 学校外での子どもの学習環境に関して、個々の家庭の間で差異はどのくらいあると思いますか。

1. とてもある      2. ややある      3. あまりない      4. ぜんぜんない      5. わからない

Q11 子どもの学習環境における家庭間の差異ないしは格差の解消に、どこが中心的に責任をもって対処すべきだと思いますか。1つに○を付けてください。

1. 行政が対処すべき      2. 保護者が対処すべき  
3. 学校や教師が対処すべき      4. 対処する必要はない

Q12 子どもの学力の差を解消するために教師ができることとして、どのようなことがあると思いますか。  
A～Fのそれぞれについて、お答えください。

	とてもそう	ややそう	あまり そうでない	ぜんぜん そうでない
A 勉強する習慣・達成感をつける	1 .....	2 .....	3 .....	4
B 習熟度に合った指導をする	1 .....	2 .....	3 .....	4
C 学力の低い児童に補習をする	1 .....	2 .....	3 .....	4
D 将来の進路・キャリアを考えさせる	1 .....	2 .....	3 .....	4
E 保護者に関心と支援をお願いする	1 .....	2 .....	3 .....	4
F 学校外の地域の人を活用する	1 .....	2 .....	3 .....	4
Fについて具体的に書いてください。				

Q13 以下のA、Bの2時点において、「教職を通じて、社会的弱者の手助けをすること」は、あなたにとってどのくらい重要でしたか／重要ですか。あてはまるものにそれぞれ1つ○を付けてください。

## A 教員になる際

1. 全く重要ではなかった
2. あまり重要ではなかった
3. ある程度重要だった
4. 非常に重要だった

## B 現在

1. 全く重要ではない
2. あまり重要ではない
3. ある程度重要
4. 非常に重要

Q14 先生ご自身は、日ごろの教育の中で、次のようなことを取り入れた教育を行っていますか。

	とても 行っている	やや 行っている	あまり 行っていない	ぜんぜん 行っていない
A さまざまな障がいを持った人に対する配慮	1 .....	2 .....	3 .....	4
B 異なる文化的背景（外国籍等）を持った人への理解、共生教育	1 .....	2 .....	3 .....	4
C 性に関する多様性（LGBTQ）への理解	1 .....	2 .....	3 .....	4
D ひとり親家族への配慮	1 .....	2 .....	3 .....	4
E 学校の伝統や文化の継承	1 .....	2 .....	3 .....	4
F 地域など学校の外の資源を、教育内容・活動で活用すること	1 .....	2 .....	3 .....	4
G SDGs、ESDなど、持続可能性に関わる活動	1 .....	2 .....	3 .....	4
H 将来の職業や人生について考える活動	1 .....	2 .....	3 .....	4

Q15 先生ご自身は、最近の次のような教育改革に関して、賛成ですか、反対ですか。

	とても賛成	やや賛成	どちらとも いえない	やや反対	とても反対
A 小学校の教科担任制	1	2	3	4	5
B アクティブ・ラーニング	1	2	3	4	5
C カリキュラム・マネジメント	1	2	3	4	5
D 複数教科等横断的な視点に立つ学習活動	1	2	3	4	5
E 観点別評価の導入	1	2	3	4	5
F 児童生徒に関する調査やデータを踏まえた教育課程を編成、実施、評価	1	2	3	4	5
G 社会や保護者などの要望を取り入れて、教育課程を編成すること	1	2	3	4	5

Q16 平成 18 年の教育基本法の改正で、「宗教に関する一般的な教養」という言葉が追加されました。学校教育における宗教教育に関して、どのようにお考えですか。

Q17 あなたは、教師として日々忙しいですか。

1. とても忙しい      2. かなり忙しい      3. あまり忙しくない      4. 忙しくない

Q18 これからの小学校教育のあり方に関して、あなたのご意見をご自由にお書きください。



Q19 最後に 先生ご自身のことについて、お尋ねします。

- 1 性別は 1. 男 2. 女
- 2 年齢は 1. ～29歳 2. 30～39歳 3. 40～49歳  
4. 50～60歳 5. 61歳以上
- 3 勤務校所在地は  
01. 北海道 02. 青森県 03. 岩手県 04. 宮城県 05. 秋田県 06. 山形県  
07. 福島県 08. 茨城県 09. 栃木県 10. 群馬県 11. 埼玉県 12. 千葉県  
13. 東京都 14. 神奈川県 15. 新潟県 16. 富山県 17. 石川県 18. 福井県  
19. 山梨県 20. 長野県 21. 岐阜県 22. 静岡県 23. 愛知県 24. 三重県  
25. 滋賀県 26. 京都府 27. 大阪府 28. 兵庫県 29. 奈良県 30. 和歌山県  
31. 鳥取県 32. 島根県 33. 岡山県 34. 広島県 35. 山口県 36. 徳島県  
37. 香川県 38. 愛媛県 39. 高知県 40. 福岡県 41. 佐賀県 42. 長崎県  
43. 熊本県 44. 大分県 45. 宮崎県 46. 鹿児島県 47. 沖縄県
- 4 勤務校の学区はどのような地域ですか。もっとも近いもの1つに○を付けてください。  
1. 農林漁業地域 2. 工業地域 3. 都市郊外の住宅地域 4. 都市中心部の住宅地域  
5. 都市中心部の商業地域 6. その他 ( )
- 5 勤務先の小学校の学校規模(学級数、特別支援学校を含む)は  
1. 5学級以下 2. 6～11学級 3. 12～24学級  
4. 25～30学級 5. 31学級以上
- 6 担任の学年は  
1. 1学年 2. 2学年 3. 3学年 4. 4学年 5. 5学年 6. 6学年  
7. 担任をしていない 8. その他 ( )
- 7 専門の教科を担当していますか。担当している場合は、その教科に○を付けてください。  
1. 担当していない 担当している( 2. 音楽 3. 英語 4. 理科 5. その他 ( ) )
- 8 役職は  
1. 校長 2. 副校長・教頭 3. 主幹教諭 4. 教務主任  
5. その他の主任 6. 役職についていない

以上です。ご協力、ありがとうございました。

## 2. 調査結果

		合計		性別		年齢				
		人数(人)	割合 (%)	男	女	29歳以下	30-39歳	40-49歳	50-60歳	61歳以上
Q1_A. 感じること_学力が低下している	よくある	103	13.5	12.7	14.3	12.8	12.1	16.6	12.5	15.4
	時々ある	421	55.2	52.1	58.0	52.1	51.8	52.6	58.2	69.2
	あまりない	218	28.6	31.7	25.8	29.9	33.3	29.7	26.3	15.4
	ぜんぜんない	18	2.4	2.8	2.0	5.1	2.1	1.1	2.3	---
	無答・不明	3	0.4	0.8	---	---	0.7	---	0.7	---
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q1_B. 感じること_学ぶ意欲が低下している	よくある	82	10.7	12.1	9.5	9.4	10.6	12.6	10.5	7.7
	時々ある	355	46.5	48.2	45.0	45.3	46.8	42.3	48.7	53.8
	あまりない	290	38.0	35.8	40.0	37.6	36.9	42.3	36.2	38.5
	ぜんぜんない	35	4.6	3.9	5.3	7.7	5.7	2.9	4.3	---
	無答・不明	1	0.1	---	0.3	---	---	---	0.3	---
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q1_C. 感じること_でき・不得き分化	よくある	335	43.9	43.8	44.0	53.0	42.6	44.0	42.4	26.9
	時々ある	362	47.4	47.4	47.5	36.8	49.6	49.1	47.7	69.2
	あまりない	60	7.9	8.0	7.8	9.4	7.1	6.9	8.9	---
	ぜんぜんない	3	0.4	0.6	0.3	---	0.7	---	0.3	3.8
	無答・不明	3	0.4	0.3	0.5	0.9	---	---	0.7	---
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q1_D. 感じること_落ち着かない子ども増	よくある	311	40.8	38.0	43.3	29.1	42.6	41.1	44.1	42.3
	時々ある	333	43.6	44.1	43.3	48.7	35.5	46.3	43.8	46.2
	あまりない	107	14.0	16.3	12.0	18.8	18.4	12.6	11.2	11.5
	ぜんぜんない	12	1.6	1.7	1.5	3.4	3.5	---	1.0	---
	無答・不明	0	---	---	---	---	---	---	---	---
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q1_E. 感じること_わがままな子ども増	よくある	238	31.2	32.2	30.3	18.8	34.0	35.4	32.9	23.1
	時々ある	358	46.9	45.7	48.0	45.3	39.7	44.0	50.3	73.1
	あまりない	153	20.1	19.8	20.3	32.5	22.0	20.0	15.8	3.8
	ぜんぜんない	14	1.8	2.2	1.5	3.4	4.3	0.6	1.0	---
	無答・不明	0	---	---	---	---	---	---	---	---
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q1_F. 感じること_指導困難な子ども増	よくある	302	39.6	35.8	43.0	30.8	39.0	46.3	40.1	30.8
	時々ある	359	47.1	50.1	44.3	47.0	43.3	40.6	51.0	65.4
	あまりない	93	12.2	12.7	11.8	19.7	14.9	13.1	8.2	3.8
	ぜんぜんない	9	1.2	1.4	1.0	2.6	2.8	---	0.7	---
	無答・不明	0	---	---	---	---	---	---	---	---
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q1_G. 感じること_家庭のしつけ不十分な子ども増	よくある	249	32.6	33.1	32.3	30.8	35.5	36.6	30.3	26.9
	時々ある	401	52.6	53.2	52.0	46.2	48.9	49.7	57.9	57.7
	あまりない	109	14.3	13.2	15.3	21.4	14.9	13.1	11.8	15.4
	ぜんぜんない	4	0.5	0.6	0.5	1.7	0.7	0.6	---	---
	無答・不明	0	---	---	---	---	---	---	---	---
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q1_H. 感じること_素直な子ども増	よくある	82	10.7	9.9	11.5	17.1	9.9	10.3	8.9	11.5
	時々ある	360	47.2	43.5	50.5	48.7	45.4	49.7	46.7	38.5
	あまりない	308	40.4	44.9	36.3	34.2	43.3	38.9	41.8	46.2
	ぜんぜんない	12	1.6	1.4	1.8	---	1.4	0.6	2.6	3.8
	無答・不明	1	0.1	0.3	---	---	---	0.6	---	---
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q1_I. 感じること_やさしい子ども増	よくある	77	10.1	9.4	10.8	13.7	10.6	12.6	7.9	---
	時々ある	430	56.4	54.8	57.8	64.1	53.2	54.9	55.9	53.8
	あまりない	249	32.6	34.4	31.0	22.2	35.5	32.0	34.5	46.2
	ぜんぜんない	6	0.8	1.4	0.3	---	0.7	0.6	1.3	---
	無答・不明	1	0.1	---	0.3	---	---	---	0.3	---
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q1_J. 感じること_将来に向けて努力する子ども増	よくある	25	3.3	4.1	2.5	6.8	2.1	5.1	1.6	---
	時々ある	261	34.2	33.3	35.0	29.9	34.8	29.1	38.5	34.6
	あまりない	450	59.0	58.7	59.3	59.0	60.3	63.4	55.6	61.5
	ぜんぜんない	24	3.1	3.6	2.8	4.3	2.8	2.3	3.6	---
	無答・不明	3	0.4	0.3	0.5	---	---	---	0.7	3.8
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q1_K. 感じること_情報機器に長けた子ども増	よくある	461	60.4	58.4	62.3	63.2	69.5	65.1	52.6	57.7
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

2. 調査結果

		合計		性別		年齢				
		人数(人)	割合 (%)	男	女	29歳以下	30-39歳	40-49歳	50-60歳	61歳以上
		763	100.0	363	400	117	141	175	304	26
	時々ある	273	35.8	38.8	33.0	30.8	26.2	30.3	45.1	38.5
	あまりない	27	3.5	2.2	4.8	6.0	3.5	4.0	2.3	3.8
	ぜんぜんない	1	0.1	0.3	---	---	---	0.6	---	---
	無答・不明	1	0.1	0.3	---	---	0.7	---	---	---
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q2.	指導上の留意点									
	回答なし	242	31.7	31.7	31.8	25.6	27.7	33.1	35.2	30.8
	回答あり	521	68.3	68.3	68.3	74.4	72.3	66.9	64.8	69.2
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q3_A.	教科書使用頻度_国語									
	毎時間必ず使う	605	79.3	81.5	77.3	78.6	74.5	81.7	80.6	76.9
	使わない時よりも使うことが多い	107	14.0	10.5	17.3	19.7	22.7	12.0	9.2	11.5
	使う時よりも使わないことが多い	3	0.4	---	0.8	---	0.7	0.6	0.3	---
	ほとんど使わない	5	0.7	0.6	0.8	---	0.7	1.1	0.7	---
	無答・不明	43	5.6	7.4	4.0	1.7	1.4	4.6	9.2	11.5
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q3_B.	教科書使用頻度_社会									
	毎時間必ず使う	463	60.7	65.3	56.5	49.6	64.5	64.0	61.5	57.7
	使わない時よりも使うことが多い	161	21.1	20.4	21.8	29.1	22.7	19.4	19.7	3.8
	使う時よりも使わないことが多い	28	3.7	3.6	3.8	7.7	2.1	4.0	2.3	7.7
	ほとんど使わない	12	1.6	1.4	1.8	1.7	2.8	1.7	0.7	3.8
	無答・不明	99	13.0	9.4	16.3	12.0	7.8	10.9	15.8	26.9
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q3_C.	教科書使用頻度_算数									
	毎時間必ず使う	558	73.1	76.3	70.3	66.7	70.9	77.1	74.3	73.1
	使わない時よりも使うことが多い	121	15.9	12.1	19.3	21.4	20.6	12.6	13.5	15.4
	使う時よりも使わないことが多い	34	4.5	4.1	4.8	7.7	5.7	5.1	2.3	3.8
	ほとんど使わない	8	1.0	0.6	1.5	2.6	0.7	1.1	0.7	---
	無答・不明	42	5.5	6.9	4.3	1.7	2.1	4.0	9.2	7.7
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q3_D.	教科書使用頻度_理科									
	毎時間必ず使う	428	56.1	59.0	53.5	41.9	56.0	62.9	57.6	57.7
	使わない時よりも使うことが多い	168	22.0	23.7	20.5	28.2	22.7	17.7	23.0	7.7
	使う時よりも使わないことが多い	37	4.8	5.5	4.3	6.8	5.0	6.3	3.0	7.7
	ほとんど使わない	17	2.2	1.7	2.8	4.3	3.5	2.3	0.7	3.8
	無答・不明	113	14.8	10.2	19.0	18.8	12.8	10.9	15.8	23.1
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q3_E.	教科書使用頻度_生活									
	毎時間必ず使う	118	15.5	17.1	14.0	9.4	17.7	16.0	16.1	19.2
	使わない時よりも使うことが多い	217	28.4	26.2	30.5	19.7	19.9	27.4	36.2	30.8
	使う時よりも使わないことが多い	199	26.1	21.8	30.0	29.1	28.4	27.4	23.0	26.9
	ほとんど使わない	44	5.8	4.4	7.0	17.1	5.0	4.6	3.0	---
	無答・不明	185	24.2	30.6	18.5	24.8	29.1	24.6	21.7	23.1
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q3_F.	教科書使用頻度_音楽									
	毎時間必ず使う	433	56.7	50.7	62.3	49.6	54.6	61.7	57.9	53.8
	使わない時よりも使うことが多い	190	24.9	25.9	24.0	29.9	25.5	22.9	24.3	19.2
	使う時よりも使わないことが多い	32	4.2	4.1	4.3	3.4	6.4	4.6	3.0	7.7
	ほとんど使わない	7	0.9	0.8	1.0	2.6	0.7	0.6	0.7	---
	無答・不明	101	13.2	18.5	8.5	14.5	12.8	10.3	14.1	19.2
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q3_G.	教科書使用頻度_図画工作									
	毎時間必ず使う	130	17.0	16.0	18.0	13.7	12.8	19.4	18.8	19.2
	使わない時よりも使うことが多い	255	33.4	31.1	35.5	31.6	24.8	36.6	36.5	30.8
	使う時よりも使わないことが多い	252	33.0	32.0	34.0	35.9	42.6	28.6	31.3	19.2
	ほとんど使わない	56	7.3	9.1	5.8	13.7	12.8	8.0	2.0	7.7
	無答・不明	70	9.2	11.8	6.8	5.1	7.1	7.4	11.5	23.1
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q3_H.	教科書使用頻度_家庭									
	毎時間必ず使う	269	35.3	36.9	33.8	26.5	30.5	37.7	39.1	38.5
	使わない時よりも使うことが多い	264	34.6	33.6	35.5	34.2	38.3	36.0	32.6	30.8
	使う時よりも使わないことが多い	42	5.5	6.9	4.3	4.3	9.2	6.9	3.9	---
	ほとんど使わない	15	2.0	1.7	2.3	5.1	2.1	1.1	1.0	3.8
	無答・不明	173	22.7	20.9	24.3	29.9	19.9	18.3	23.4	26.9
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q3_I.	教科書使用頻度_体育(保健)									
	毎時間必ず使う	204	26.7	26.7	26.8	12.8	27.0	34.9	27.3	26.9
	使わない時よりも使うことが多い	153	20.1	22.3	18.0	23.1	17.7	17.1	21.4	23.1
	使う時よりも使わないことが多い	191	25.0	25.6	24.5	29.1	26.2	22.3	25.7	11.5
	ほとんど使わない	135	17.7	15.4	19.8	28.2	23.4	17.1	11.5	15.4
	無答・不明	80	10.5	9.9	11.0	6.8	5.7	8.6	14.1	23.1

		合計		性別		年齢				
		人数(人)	割合(%)	男	女	29歳以下	30-39歳	40-49歳	50-60歳	61歳以上
		763	100.0	363	400	117	141	175	304	26
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q3_J. 教科書使用頻度_特別の教科 道徳	毎時間必ず使う	562	73.7	70.8	76.3	78.6	79.4	74.3	69.4	65.4
	使わない時よりも使うことが多い	131	17.2	18.5	16.0	17.1	14.9	18.9	17.1	19.2
	使う時よりも使わないことが多い	10	1.3	1.1	1.5	0.9	2.1	0.6	1.6	---
	ほとんど使わない	7	0.9	0.8	1.0	0.9	1.4	0.6	1.0	---
	無答・不明	53	6.9	8.8	5.3	2.6	2.1	5.7	10.9	15.4
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q3_K. 教科書使用頻度_外国語	毎時間必ず使う	491	64.4	69.1	60.0	60.7	65.2	70.3	63.5	46.2
	使わない時よりも使うことが多い	124	16.3	15.7	16.8	23.9	17.0	13.1	15.1	11.5
	使う時よりも使わないことが多い	20	2.6	2.5	2.8	1.7	4.3	2.3	2.0	7.7
	ほとんど使わない	19	2.5	1.7	3.3	3.4	2.8	1.7	2.3	3.8
	無答・不明	109	14.3	11.0	17.3	10.3	10.6	12.6	17.1	30.8
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q4_A. 教科書使用理由_難易度適切	とてもそう	372	48.8	48.8	48.8	37.6	44.7	53.7	53.3	34.6
	ややそう	345	45.2	43.8	46.5	56.6	50.4	41.1	39.8	61.5
	あまりそうでない	24	3.1	3.6	2.8	5.1	3.5	4.0	2.0	---
	ぜんぜんそうでない	1	0.1	---	0.3	0.9	---	---	---	---
	無答・不明	21	2.8	3.9	1.8	0.9	1.4	1.1	4.9	3.8
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q4_B. 教科書使用理由_基礎・基本網羅	とてもそう	526	68.9	66.9	70.8	58.1	68.8	72.6	70.4	76.9
	ややそう	205	26.9	28.4	25.5	38.5	27.7	25.7	23.4	19.2
	あまりそうでない	10	1.3	0.8	1.8	2.6	2.1	0.6	1.0	---
	ぜんぜんそうでない	0	---	---	---	---	---	---	---	---
	無答・不明	22	2.9	3.9	2.0	0.9	1.4	1.1	5.3	3.8
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q4_C. 教科書使用理由_発展的内容あり	とてもそう	219	28.7	24.0	33.0	29.1	27.0	26.9	30.6	26.9
	ややそう	384	50.3	53.7	47.3	49.6	51.8	52.6	47.7	61.5
	あまりそうでない	133	17.4	17.6	17.3	20.5	19.1	18.3	15.8	7.7
	ぜんぜんそうでない	3	0.4	0.3	0.5	---	0.7	0.6	0.3	---
	無答・不明	24	3.1	4.4	2.0	0.9	1.4	1.7	5.6	3.8
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q4_D. 教科書使用理由_教材量が適切	とてもそう	285	37.4	35.3	39.3	36.8	29.1	37.7	41.1	38.5
	ややそう	394	51.6	52.9	50.5	58.1	56.0	53.1	46.1	53.8
	あまりそうでない	61	8.0	7.7	8.3	4.3	13.5	8.0	7.2	3.8
	ぜんぜんそうでない	1	0.1	---	0.3	---	---	---	0.3	---
	無答・不明	22	2.9	4.1	1.8	0.9	1.4	1.1	5.3	3.8
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q4_E. 教科書使用理由_学習指導要領の目標に沿う	とてもそう	542	71.0	68.6	73.3	65.0	67.4	76.0	71.7	76.9
	ややそう	199	26.1	27.3	25.0	34.2	31.2	22.3	23.4	19.2
	あまりそうでない	1	0.1	0.3	---	---	---	0.6	---	---
	ぜんぜんそうでない	0	---	---	---	---	---	---	---	---
	無答・不明	21	2.8	3.9	1.8	0.9	1.4	1.1	4.9	3.8
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q4_F. 教科書使用理由_どのレベルの子にも使いやすい	とてもそう	211	27.7	28.9	26.5	24.8	25.5	30.9	28.6	19.2
	ややそう	390	51.1	49.3	52.8	50.4	50.4	49.1	51.6	65.4
	あまりそうでない	131	17.2	16.8	17.5	21.4	22.0	17.7	13.5	11.5
	ぜんぜんそうでない	8	1.0	1.1	1.0	2.6	0.7	1.1	0.7	---
	無答・不明	23	3.0	3.9	2.3	0.9	1.4	1.1	5.6	3.8
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q4_G. 教科書使用理由_子どもの興味関心に適す	とてもそう	161	21.1	19.3	22.8	18.8	17.0	23.4	23.4	11.5
	ややそう	461	60.4	57.9	62.8	54.7	63.1	61.7	59.9	69.2
	あまりそうでない	112	14.7	17.6	12.0	22.2	17.7	13.7	10.9	15.4
	ぜんぜんそうでない	7	0.9	1.4	0.5	3.4	0.7	---	0.7	---
	無答・不明	22	2.9	3.9	2.0	0.9	1.4	1.1	5.3	3.8
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q4_H. 教科書使用理由_教科書に満足	とてもそう	182	23.9	22.6	25.0	23.1	21.3	30.3	22.7	11.5
	ややそう	500	65.5	65.6	65.5	68.4	63.8	64.0	64.8	80.8
	あまりそうでない	54	7.1	6.6	7.5	4.3	13.5	4.6	6.9	3.8
	ぜんぜんそうでない	6	0.8	1.4	0.3	3.4	---	---	0.7	---
	無答・不明	21	2.8	3.9	1.8	0.9	1.4	1.1	4.9	3.8
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

2. 調査結果

	合計		性別		年齢					
	人数(人)	割合(%)	男	女	29歳以下	30-39歳	40-49歳	50-60歳	61歳以上	
	763	100.0	363	400	117	141	175	304	26	
Q5_1_A. 端末で実施できるか_学習過程の記録の分析	できる	392	51.4	49.6	53.0	60.7	53.2	56.6	45.1	38.5
	できない	354	46.4	48.8	44.3	39.3	44.0	41.7	52.3	53.8
	無答・不明	17	2.2	1.7	2.8	---	2.8	1.7	2.6	7.7
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q5_1_B. 端末で実施できるか_学習過程の記録を保護者と共有	できる	143	18.7	19.3	18.3	21.4	19.9	17.7	18.1	15.4
	できない	603	79.0	79.3	78.8	78.6	78.7	79.4	79.3	76.9
	無答・不明	17	2.2	1.4	3.0	---	1.4	2.9	2.6	7.7
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q5_1_C. 端末で実施できるか_YouTubeの閲覧	できる	489	64.1	66.4	62.0	63.2	70.2	62.3	64.1	46.2
	できない	259	33.9	32.5	35.3	36.8	27.7	36.0	33.6	46.2
	無答・不明	15	2.0	1.1	2.8	---	2.1	1.7	2.3	7.7
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q5_1_D. 端末で実施できるか_インターネット等による資料の収集	できる	726	95.2	96.4	94.0	97.4	92.2	95.4	95.7	92.3
	できない	27	3.5	2.5	4.5	2.6	6.4	3.4	3.0	---
	無答・不明	10	1.3	1.1	1.5	---	1.4	1.1	1.3	7.7
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q5_1_E. 端末で実施できるか_画像や動画等の共有	できる	709	92.9	92.0	93.8	96.6	91.5	92.6	92.4	92.3
	できない	44	5.8	7.2	4.5	3.4	7.1	6.3	6.3	---
	無答・不明	10	1.3	0.8	1.8	---	1.4	1.1	1.3	7.7
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q5_1_F. 端末で実施できるか_端末を家庭に持ち帰っての使用	できる	475	62.3	62.3	62.3	59.8	70.2	63.4	60.9	38.5
	できない	276	36.2	36.6	35.8	40.2	28.4	34.9	37.8	50.0
	無答・不明	12	1.6	1.1	2.0	---	1.4	1.7	1.3	11.5
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q5_1_G. 端末で実施できるか_端末による家庭学習の提出	できる	397	52.0	55.1	49.3	54.7	65.2	50.9	46.4	42.3
	できない	354	46.4	44.1	48.5	45.3	33.3	46.9	52.3	50.0
	無答・不明	12	1.6	0.8	2.3	---	1.4	2.3	1.3	7.7
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q5_1_H. 端末で実施できるか_使用にあたっての保護者のサポート	できる	380	49.8	47.7	51.8	53.8	53.2	52.0	46.7	34.6
	できない	363	47.6	51.0	44.5	46.2	44.7	45.1	50.0	57.7
	無答・不明	20	2.6	1.4	3.8	---	2.1	2.9	3.3	7.7
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q5_1_I. 端末で実施できるか_端末を使用したオンライン授業	できる	472	61.9	63.1	60.8	65.0	73.0	63.4	55.6	50.0
	できない	274	35.9	35.0	36.8	35.0	24.8	34.3	42.1	38.5
	無答・不明	17	2.2	1.9	2.5	---	2.1	2.3	2.3	11.5
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q5_2_A. 小学校の教育活動に必要な_学習過程の記録の分析	とても必要	262	34.3	36.4	32.5	47.9	40.4	29.1	30.3	23.1
	やや必要	395	51.8	51.2	52.3	42.7	46.1	55.4	54.9	61.5
	あまり必要でない	91	11.9	11.0	12.8	9.4	10.6	13.1	13.2	7.7
	まったく必要でない	7	0.9	0.6	1.3	---	1.4	1.1	1.0	---
	無答・不明	8	1.0	0.8	1.3	---	1.4	1.1	0.7	7.7
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q5_2_B. 小学校の教育活動に必要な_学習過程の記録を保護者と共有	とても必要	177	23.2	24.8	21.8	44.4	26.2	17.1	17.4	19.2
	やや必要	380	49.8	49.0	50.5	42.7	46.1	54.3	51.0	57.7
	あまり必要でない	186	24.4	24.5	24.3	12.8	24.1	25.7	28.9	15.4
	まったく必要でない	11	1.4	0.6	2.3	---	2.1	1.7	1.6	---
	無答・不明	9	1.2	1.1	1.3	---	1.4	1.1	1.0	7.7
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q5_2_C. 小学校の教育活動に必要な_YouTubeの閲覧	とても必要	101	13.2	15.4	11.3	14.5	15.6	9.7	13.8	11.5
	やや必要	363	47.6	49.3	46.0	45.3	45.4	51.4	47.7	42.3
	あまり必要でない	257	33.7	29.5	37.5	32.5	33.3	35.4	33.9	26.9
	まったく必要でない	36	4.7	5.2	4.3	7.7	4.3	2.9	4.3	11.5
	無答・不明	6	0.8	0.6	1.0	---	1.4	0.6	0.3	7.7
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q5_2_D. 小学校の教育活動に必要な_インターネット等による資料の収集	とても必要	508	66.6	68.9	64.5	70.9	72.3	61.7	65.8	57.7
	やや必要	237	31.1	29.5	32.5	27.4	24.8	35.4	32.9	30.8
	あまり必要でない	12	1.6	1.1	2.0	1.7	1.4	2.3	1.0	3.8
	まったく必要でない	0	---	---	---	---	---	---	---	---
	無答・不明	6	0.8	0.6	1.0	---	1.4	0.6	0.3	7.7
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q5_2_E. 小学校の教育活動に必要な_画像や動画等の共有	とても必要	422	55.3	53.2	57.3	61.5	63.1	50.9	52.3	50.0

		合計		性別		年齢				
		人数(人)	割合 (%)	男	女	29歳以下	30-39歳	40-49歳	50-60歳	61歳以上
		763	100.0	363	400	117	141	175	304	26
	やや必要	296	38.8	41.3	36.5	35.9	31.2	42.9	40.8	42.3
	あまり必要でない	37	4.8	5.0	4.8	2.6	4.3	5.1	6.3	---
	まったく必要でない	2	0.3	---	0.5	---	---	0.6	0.3	---
	無答・不明	6	0.8	0.6	1.0	---	1.4	0.6	0.3	7.7
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q5_2_F.	小学校の教育活動に必要な_端末を家庭に持ち帰っての使用	213	27.9	29.2	26.8	33.3	31.9	27.4	24.7	23.1
	やや必要	344	45.1	47.4	43.0	40.2	46.8	44.6	47.4	34.6
	あまり必要でない	176	23.1	19.3	26.5	23.9	15.6	24.0	24.7	34.6
	まったく必要でない	24	3.1	3.6	2.8	2.6	4.3	3.4	3.0	---
	無答・不明	6	0.8	0.6	1.0	---	1.4	0.6	0.3	7.7
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q5_2_G.	小学校の教育活動に必要な_端末による家庭学習の提出	171	22.4	23.7	21.3	29.9	29.1	19.4	19.1	11.5
	やや必要	338	44.3	46.6	42.3	46.2	44.0	47.4	42.4	38.5
	あまり必要でない	218	28.6	25.3	31.5	21.4	21.3	26.9	34.5	42.3
	まったく必要でない	30	3.9	3.9	4.0	2.6	4.3	5.7	3.6	---
	無答・不明	6	0.8	0.6	1.0	---	1.4	0.6	0.3	7.7
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q5_2_H.	小学校の教育活動に必要な_使用にあたっての保護者のサポート	419	54.9	55.9	54.0	64.1	61.0	48.6	53.0	46.2
	やや必要	274	35.9	35.5	36.3	32.5	27.7	42.9	37.5	30.8
	あまり必要でない	55	7.2	6.6	7.8	2.6	8.5	7.4	7.6	15.4
	まったく必要でない	8	1.0	1.1	1.0	0.9	1.4	0.6	1.3	---
	無答・不明	7	0.9	0.8	1.0	---	1.4	0.6	0.7	7.7
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q5_2_I.	小学校の教育活動に必要な_端末を使用したオンライン授業	186	24.4	26.2	22.8	24.8	27.0	20.6	26.0	15.4
	やや必要	376	49.3	48.2	50.3	50.4	48.9	52.0	48.0	42.3
	あまり必要でない	177	23.2	22.0	24.3	21.4	19.9	23.4	24.3	34.6
	まったく必要でない	17	2.2	3.0	1.5	3.4	2.1	3.4	1.3	---
	無答・不明	7	0.9	0.6	1.3	---	2.1	0.6	0.3	7.7
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q6_A.	端末の活用しやすさ_国語	107	14.0	14.3	13.8	17.1	17.0	14.9	11.5	7.7
	どちらかといえば活用しやすい	359	47.1	45.2	48.8	42.7	49.6	48.6	47.7	34.6
	どちらかといえば活用しにくい	185	24.2	25.1	23.5	23.1	23.4	24.6	24.0	34.6
	活用しにくい	26	3.4	4.1	2.8	6.0	4.3	2.3	2.6	3.8
	活用したことはない	49	6.4	5.8	7.0	8.5	2.8	6.9	7.2	3.8
	無答・不明	37	4.8	5.5	4.3	2.6	2.8	2.9	6.9	15.4
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q6_B.	端末の活用しやすさ_社会	285	37.4	44.6	30.8	45.3	38.3	41.1	31.9	34.6
	どちらかといえば活用しやすい	309	40.5	38.8	42.0	30.8	41.8	38.9	45.4	30.8
	どちらかといえば活用しにくい	25	3.3	4.7	2.0	2.6	2.8	3.4	3.6	3.8
	活用しにくい	4	0.5	0.3	0.8	---	---	1.7	0.3	---
	活用したことはない	58	7.6	4.4	10.5	11.1	7.8	7.4	6.6	3.8
	無答・不明	82	10.7	7.2	14.0	10.3	9.2	7.4	12.2	26.9
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q6_C.	端末の活用しやすさ_算数	206	27.0	28.9	25.3	23.9	26.2	32.6	24.7	34.6
	どちらかといえば活用しやすい	339	44.4	41.9	46.8	38.5	48.2	42.9	47.0	30.8
	どちらかといえば活用しにくい	115	15.1	16.0	14.3	24.8	12.1	13.1	13.2	23.1
	活用しにくい	22	2.9	1.9	3.8	5.1	5.0	2.9	1.3	---
	活用したことはない	45	5.9	6.3	5.5	6.0	6.4	5.1	6.6	---
	無答・不明	36	4.7	5.0	4.5	1.7	2.1	3.4	7.2	11.5
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q6_D.	端末の活用しやすさ_理科	256	33.6	39.7	28.0	30.8	32.6	37.7	32.6	34.6
	どちらかといえば活用しやすい	314	41.2	41.6	40.8	30.8	46.8	42.9	42.4	30.8
	どちらかといえば活用しにくい	38	5.0	6.6	3.5	12.0	1.4	4.0	4.6	3.8
	活用しにくい	4	0.5	0.6	0.5	---	0.7	1.1	0.3	---
	活用したことはない	58	7.6	3.6	11.3	13.7	7.1	5.7	6.9	3.8
	無答・不明	93	12.2	8.0	16.0	12.8	11.3	8.6	13.2	26.9
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q6_E.	端末の活用しやすさ_生活	116	15.2	14.0	16.3	16.2	17.7	16.0	13.8	7.7
	どちらかといえば活用しやすい	246	32.2	29.8	34.5	26.5	27.7	32.6	36.5	30.8
	どちらかといえば活用しにくい	114	14.9	16.0	14.0	7.7	9.2	18.3	17.1	30.8
	活用しにくい	27	3.5	4.1	3.0	2.6	5.7	2.3	3.9	---

2. 調査結果

		合計		性別		年齢				
		人数(人)	割合 (%)	男	女	29歳以下	30-39歳	40-49歳	50-60歳	61歳以上
	活用したことはない	763	100.0	363	400	117	141	175	304	26
		118	15.5	14.6	16.3	25.6	17.0	13.7	12.5	7.7
	無答・不明	142	18.6	21.5	16.0	21.4	22.7	17.1	16.1	23.1
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q6_F. 端末の活用しやすさ_音楽	活用しやすい	69	9.0	8.5	9.5	12.8	11.3	10.3	6.3	3.8
	どちらかといえば活用しやすい	269	35.3	35.0	35.5	24.8	34.0	36.6	39.5	30.8
	どちらかといえば活用しにくい	183	24.0	25.1	23.0	21.4	20.6	27.4	24.7	23.1
	活用しにくい	36	4.7	4.4	5.0	4.3	8.5	3.4	3.6	7.7
	活用したことはない	131	17.2	15.4	18.8	25.6	16.3	17.1	15.1	7.7
	無答・不明	75	9.8	11.6	8.3	11.1	9.2	5.1	10.9	26.9
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q6_G. 端末の活用しやすさ_図画工作	活用しやすい	79	10.4	11.3	9.5	14.5	15.6	10.3	6.9	3.8
	どちらかといえば活用しやすい	286	37.5	39.1	36.0	33.3	36.2	44.0	36.5	30.8
	どちらかといえば活用しにくい	181	23.7	24.2	23.3	19.7	19.9	23.4	27.0	26.9
	活用しにくい	43	5.6	6.1	5.3	3.4	5.7	6.9	5.9	3.8
	活用したことはない	118	15.5	11.6	19.0	25.6	14.2	12.0	14.5	11.5
	無答・不明	56	7.3	7.7	7.0	3.4	8.5	3.4	9.2	23.1
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q6_H. 端末の活用しやすさ_家庭	活用しやすい	74	9.7	9.4	10.0	7.7	13.5	10.3	8.9	3.8
	どちらかといえば活用しやすい	262	34.3	36.9	32.0	23.1	33.3	38.9	36.5	34.6
	どちらかといえば活用しにくい	131	17.2	19.6	15.0	8.5	18.4	19.4	18.1	23.1
	活用しにくい	23	3.0	3.0	3.0	4.3	---	2.9	3.9	3.8
	活用したことはない	136	17.8	14.6	20.8	35.0	17.0	15.4	13.8	7.7
	無答・不明	137	18.0	16.5	19.3	21.4	17.7	13.1	18.8	26.9
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q6_I. 端末の活用しやすさ_体育（保健）	活用しやすい	143	18.7	19.6	18.0	30.8	27.0	15.4	12.8	11.5
	どちらかといえば活用しやすい	354	46.4	47.7	45.3	42.7	48.2	46.3	48.0	34.6
	どちらかといえば活用しにくい	101	13.2	14.3	12.3	9.4	9.2	17.1	14.1	15.4
	活用しにくい	22	2.9	3.0	2.8	2.6	2.8	3.4	2.6	3.8
	活用したことはない	93	12.2	8.8	15.3	12.8	9.2	13.1	13.5	3.8
	無答・不明	50	6.6	6.6	6.5	1.7	3.5	4.6	8.9	30.8
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q6_J. 端末の活用しやすさ_外国語	活用しやすい	186	24.4	25.1	23.8	20.5	27.0	30.3	21.4	23.1
	どちらかといえば活用しやすい	267	35.0	38.3	32.0	29.9	32.6	35.4	39.1	19.2
	どちらかといえば活用しにくい	87	11.4	14.3	8.8	15.4	11.3	10.9	9.9	15.4
	活用しにくい	8	1.0	1.4	0.8	2.6	---	1.7	0.7	---
	活用したことはない	105	13.8	10.2	17.0	18.8	17.0	8.6	13.8	7.7
	無答・不明	110	14.4	10.7	17.8	12.8	12.1	13.1	15.1	34.6
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q6_K. 端末の活用しやすさ_特別の教科 道徳	活用しやすい	54	7.1	7.2	7.0	8.5	10.6	6.9	5.3	3.8
	どちらかといえば活用しやすい	210	27.5	32.2	23.3	25.6	34.0	26.3	27.0	15.4
	どちらかといえば活用しにくい	211	27.7	28.4	27.0	21.4	17.7	31.4	31.6	38.5
	活用しにくい	71	9.3	9.9	8.8	8.5	12.8	10.3	7.6	7.7
	活用したことはない	173	22.7	16.3	28.5	34.2	21.3	20.0	21.1	15.4
	無答・不明	44	5.8	6.1	5.5	1.7	3.5	5.1	7.6	19.2
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q6_L. 端末の活用しやすさ_外国語活動	活用しやすい	173	22.7	24.0	21.5	19.7	22.7	25.7	22.4	19.2
	どちらかといえば活用しやすい	267	35.0	36.4	33.8	29.9	29.1	38.3	38.8	23.1
	どちらかといえば活用しにくい	91	11.9	15.4	8.8	14.5	12.1	12.6	10.2	15.4
	活用しにくい	9	1.2	1.1	1.3	0.9	2.1	1.7	0.7	---
	活用したことはない	116	15.2	11.3	18.8	22.2	19.9	10.9	13.5	7.7
	無答・不明	107	14.0	11.8	16.0	12.8	14.2	10.9	14.5	34.6
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q6_M. 端末の活用しやすさ_総合的な学習の時間	活用しやすい	352	46.1	50.1	42.5	56.4	53.2	47.4	39.8	26.9
	どちらかといえば活用しやすい	230	30.1	30.3	30.0	19.7	24.1	36.6	32.9	34.6
	どちらかといえば活用しにくい	34	4.5	5.5	3.5	3.4	6.4	3.4	4.6	3.8
	活用しにくい	3	0.4	0.3	0.5	---	---	1.1	0.3	---
	活用したことはない	64	8.4	6.6	10.0	12.8	8.5	5.1	8.9	3.8
	無答・不明	80	10.5	7.2	13.5	7.7	7.8	6.3	13.5	30.8
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q6_N. 端末の活用しやすさ_特別活動	活用しやすい	115	15.1	17.1	13.3	23.1	22.0	15.4	9.2	7.7
	どちらかといえば活用しやすい	269	35.3	38.8	32.0	38.5	32.6	33.7	36.2	34.6

		合計		性別		年齢				
		人数(人)	割合 (%)	男	女	29歳以下	30-39歳	40-49歳	50-60歳	61歳以上
		763	100.0	363	400	117	141	175	304	26
	どちらかといえば活用しにくい	146	19.1	20.9	17.5	11.1	14.2	21.7	22.4	26.9
	活用しにくい	31	4.1	3.3	4.8	2.6	2.1	4.0	5.9	---
	活用したことはない	142	18.6	12.9	23.8	22.2	22.7	18.9	15.8	11.5
	無答・不明	60	7.9	6.9	8.8	2.6	6.4	6.3	10.5	19.2
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q7_A.	小学校の英語教育について_英語習得がますます重要									
	とてもそう	422	55.3	51.5	58.8	60.7	61.0	55.4	50.7	53.8
	ややそう	297	38.9	41.6	36.5	35.9	34.0	38.9	42.1	42.3
	あまりそうでない	34	4.5	4.4	4.5	1.7	3.5	5.7	5.6	---
	ぜんぜんそうでない	6	0.8	1.7	---	1.7	0.7	---	1.0	---
	無答・不明	4	0.5	0.8	0.3	---	0.7	---	0.7	3.8
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q7_B.	小学校の英語教育について_早い段階から教える									
	とてもそう	229	30.0	28.7	31.3	42.7	36.9	30.9	22.7	15.4
	ややそう	297	38.9	38.3	39.5	35.9	34.8	32.0	46.1	38.5
	あまりそうでない	187	24.5	24.0	25.0	17.1	21.3	28.0	25.7	38.5
	ぜんぜんそうでない	47	6.2	8.5	4.0	4.3	6.4	9.1	5.3	3.8
	無答・不明	3	0.4	0.6	0.3	---	0.7	---	0.3	3.8
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q7_C.	小学校の英語教育について_会話できる力を養う									
	とてもそう	365	47.8	43.0	52.3	62.4	54.6	42.9	41.4	53.8
	ややそう	339	44.4	44.9	44.0	30.8	38.3	47.4	52.0	30.8
	あまりそうでない	49	6.4	9.6	3.5	5.1	5.7	8.6	5.6	11.5
	ぜんぜんそうでない	7	0.9	1.9	---	1.7	0.7	0.6	1.0	---
	無答・不明	3	0.4	0.6	0.3	---	0.7	0.6	---	3.8
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q7_D.	小学校の英語教育について_授業を英語で行う									
	とてもそう	127	16.6	17.9	15.5	12.0	20.6	22.3	13.8	11.5
	ややそう	348	45.6	43.3	47.8	53.8	46.8	36.0	47.7	42.3
	あまりそうでない	243	31.8	30.9	32.8	28.2	29.1	34.9	32.9	30.8
	ぜんぜんそうでない	42	5.5	7.7	3.5	5.1	2.8	6.9	5.6	11.5
	無答・不明	3	0.4	0.3	0.5	0.9	0.7	---	---	3.8
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q7_E.	小学校の英語教育について_外国人教師の授業を増やす									
	とてもそう	288	37.7	35.0	40.3	42.7	49.6	37.7	31.3	26.9
	ややそう	356	46.7	47.7	45.8	42.7	38.3	47.4	51.0	53.8
	あまりそうでない	106	13.9	14.6	13.3	12.0	10.6	13.1	16.4	15.4
	ぜんぜんそうでない	9	1.2	2.5	---	1.7	---	1.7	1.3	---
	無答・不明	4	0.5	0.3	0.8	0.9	1.4	---	---	3.8
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q7_F.	小学校の英語教育について_英語以外の外国語も学べるように									
	とてもそう	34	4.5	4.1	4.8	6.8	7.8	6.3	1.0	3.8
	ややそう	144	18.9	20.7	17.3	20.5	17.7	22.3	16.8	19.2
	あまりそうでない	409	53.6	52.3	54.8	57.3	53.9	46.9	56.6	46.2
	ぜんぜんそうでない	173	22.7	22.3	23.0	14.5	19.9	24.6	25.7	26.9
	無答・不明	3	0.4	0.6	0.3	0.9	0.7	---	---	3.8
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q7_G.	小学校の英語教育について_英語教育よりも国語教育									
	とてもそう	192	25.2	25.6	24.8	25.6	29.1	25.7	22.0	34.6
	ややそう	348	45.6	43.5	47.5	43.6	43.3	44.6	49.0	34.6
	あまりそうでない	199	26.1	26.2	26.0	29.1	24.1	26.9	25.3	26.9
	ぜんぜんそうでない	19	2.5	3.9	1.3	0.9	2.8	2.9	3.0	---
	無答・不明	5	0.7	0.8	0.5	0.9	0.7	---	0.7	3.8
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q7_H.	小学校の英語教育について_英語4技能の育成に重点									
	とてもそう	100	13.1	13.8	12.5	18.8	17.0	12.0	10.5	3.8
	ややそう	374	49.0	52.6	45.8	52.1	48.9	50.9	46.1	57.7
	あまりそうでない	258	33.8	28.7	38.5	23.9	31.2	31.4	40.1	34.6
	ぜんぜんそうでない	28	3.7	4.4	3.0	4.3	2.1	5.7	3.3	---
	無答・不明	3	0.4	0.6	0.3	0.9	0.7	---	---	3.8
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q7_I.	小学校の英語教育について_小学校英語で評価は不要									
	とてもそう	200	26.2	28.7	24.0	29.9	30.5	21.7	24.7	34.6
	ややそう	306	40.1	36.6	43.3	29.1	39.7	48.6	39.8	38.5
	あまりそうでない	211	27.7	28.1	27.3	34.2	24.1	25.1	28.9	19.2
	ぜんぜんそうでない	43	5.6	6.1	5.3	6.8	5.0	4.6	6.3	3.8
	無答・不明	3	0.4	0.6	0.3	---	0.7	---	0.3	3.8
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q7_J.	小学校の英語教育について_現行の時間より増やす									
	とてもそう	30	3.9	3.9	4.0	3.4	5.7	6.3	2.0	3.8
	ややそう	119	15.6	19.0	12.5	20.5	18.4	16.0	12.2	15.4



2. 調査結果

		合計		性別		年齢				
		人数(人)	割合 (%)	男	女	29歳以下	30-39歳	40-49歳	50-60歳	61歳以上
		763	100.0	363	400	117	141	175	304	26
	あまりそうでない	442	57.9	53.4	62.0	58.1	52.5	57.7	60.9	53.8
	ぜんぜんそうでない	170	22.3	23.4	21.3	17.9	22.7	20.0	25.0	23.1
	無答・不明	2	0.3	0.3	0.3	---	0.7	---	---	3.8
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q7_K	小学校の英語教育について_日本語との違いを気にかける	123	16.1	17.9	14.5	26.5	17.7	17.1	11.5	7.7
	ややそう	354	46.4	46.0	46.8	45.3	48.9	44.0	47.7	38.5
	あまりそうでない	244	32.0	30.6	33.3	25.6	27.0	32.6	35.2	46.2
	ぜんぜんそうでない	39	5.1	5.0	5.3	2.6	5.7	5.7	5.6	3.8
	無答・不明	3	0.4	0.6	0.3	---	0.7	0.6	---	3.8
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q8.	学力差が生じる時期	134	17.6	14.0	20.8	11.1	10.6	24.0	18.8	26.9
	入学当時	214	28.0	26.2	29.8	31.6	29.8	24.0	28.9	19.2
	1年生～2年生	379	49.7	53.2	46.5	53.8	51.1	48.0	48.0	53.8
	3年生～4年生	32	4.2	6.1	2.5	2.6	7.1	4.0	3.9	---
	5年生～6年生	4	0.5	0.6	0.5	0.9	1.4	---	0.3	---
	無答・不明	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q9_A.	学力差の要因_生まれながらの能力	239	31.3	30.3	32.3	30.8	31.2	30.3	32.9	23.1
	とても影響している	406	53.2	51.5	54.8	52.1	56.7	54.3	51.0	57.7
	やや影響している	111	14.5	16.8	12.5	16.2	10.6	14.3	15.5	19.2
	あまり影響していない	5	0.7	1.1	0.3	---	0.7	1.1	0.7	---
	ぜんぜん影響していない	2	0.3	0.3	0.3	0.9	0.7	---	---	---
	無答・不明	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q9_B.	学力差の要因_保護者が教育熱心	380	49.8	53.7	46.3	59.8	55.3	49.7	44.4	38.5
	とても影響している	359	47.1	42.7	51.0	35.9	42.6	46.3	53.0	57.7
	やや影響している	20	2.6	3.0	2.3	2.6	1.4	4.0	2.3	3.8
	あまり影響していない	2	0.3	0.3	0.3	0.9	---	---	0.3	---
	ぜんぜん影響していない	2	0.3	0.3	0.3	0.9	0.7	---	---	---
	無答・不明	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q9_C.	学力差の要因_子どもの学力への期待が高い	223	29.2	31.7	27.0	33.3	34.0	31.4	25.3	15.4
	とても影響している	414	54.3	52.1	56.3	49.6	50.4	54.3	57.6	57.7
	やや影響している	119	15.6	15.4	15.8	15.4	14.9	13.1	16.4	26.9
	あまり影響していない	5	0.7	0.6	0.8	0.9	---	1.1	0.7	---
	ぜんぜん影響していない	2	0.3	0.3	0.3	0.9	0.7	---	---	---
	無答・不明	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q9_D.	学力差の要因_塾・家庭教師・通信教育・稽古通い	192	25.2	30.6	20.3	29.9	31.2	22.9	22.7	15.4
	とても影響している	413	54.1	51.8	56.3	44.4	54.6	56.0	56.7	57.7
	やや影響している	146	19.1	15.7	22.3	22.2	12.8	19.4	20.4	23.1
	あまり影響していない	9	1.2	1.4	1.0	2.6	0.7	1.7	0.3	3.8
	ぜんぜん影響していない	3	0.4	0.6	0.3	0.9	0.7	---	0.3	---
	無答・不明	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q9_E.	学力差の要因_保護者自身の学習意欲が高い	342	44.8	46.0	43.8	50.4	43.3	46.9	42.4	42.3
	とても影響している	381	49.9	49.0	50.8	44.4	51.1	49.7	51.3	53.8
	やや影響している	33	4.3	3.9	4.8	3.4	5.0	2.9	5.3	3.8
	あまり影響していない	4	0.5	0.6	0.5	0.9	---	0.6	0.7	---
	ぜんぜん影響していない	3	0.4	0.6	0.3	0.9	0.7	---	0.3	---
	無答・不明	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q9_F.	学力差の要因_地域全体の教育環境	185	24.2	24.8	23.8	34.2	29.8	21.1	20.7	11.5
	とても影響している	453	59.4	59.0	59.8	45.3	56.0	64.0	62.8	69.2
	やや影響している	111	14.5	14.3	14.8	17.1	12.8	13.1	15.1	15.4
	あまり影響していない	8	1.0	1.1	1.0	1.7	0.7	1.7	0.3	3.8
	ぜんぜん影響していない	6	0.8	0.8	0.8	1.7	0.7	---	1.0	---
	無答・不明	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q9_G.	学力差の要因_その他	666	87.3	87.1	87.5	86.3	90.1	86.9	86.5	88.5
	回答なし	97	12.7	12.9	12.5	13.7	9.9	13.1	13.5	11.5
	回答あり	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q10.	学習環境の家庭間の差異	484	63.4	62.3	64.5	63.2	64.5	66.3	62.5	50.0
	とてもある	267	35.0	36.4	33.8	34.2	33.3	33.1	36.2	46.2
	ややある	8	1.0	0.8	1.3	1.7	0.7	0.6	1.3	---
	あまりない	1	0.1	---	0.3	---	0.7	---	---	---
	わからない	3	0.4	0.6	0.3	0.9	0.7	---	---	3.8
	無答・不明	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

		合計		性別		年齢				
		人数(人)	割合 (%)	男	女	29歳以下	30-39歳	40-49歳	50-60歳	61歳以上
Q11. 格差解消の責任の所在	行政が対処すべき	318	41.7	42.7	40.8	117	141	175	304	26
	保護者が対処すべき	362	47.4	49.0	46.0	64.1	52.5	43.4	41.4	42.3
	学校や教師が対処すべき	29	3.8	2.5	5.0	4.3	4.3	2.9	3.9	3.8
	対処する必要はない	37	4.8	4.1	5.5	6.8	3.5	6.9	3.6	3.8
	無答・不明	17	2.2	1.7	2.8	2.6	2.1	2.3	2.3	---
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q12_A. 学力差の解消に教師ができること_勉強する習慣・達成感をつける	とてもそう	525	68.8	68.9	68.8	73.5	69.5	65.1	69.4	61.5
	ややそう	222	29.1	28.9	29.3	23.9	28.4	32.6	28.6	38.5
	あまりそうでない	12	1.6	1.9	1.3	2.6	1.4	2.3	1.0	---
	ぜんぜんそうでない	0	---	---	---	---	---	---	---	---
	無答・不明	4	0.5	0.3	0.8	---	0.7	---	1.0	---
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q12_B. 学力差の解消に教師ができること_習熟度に合った指導をする	とてもそう	458	60.0	56.7	63.0	68.4	64.5	56.6	57.6	50.0
	ややそう	276	36.2	38.0	34.5	28.2	33.3	37.7	38.8	46.2
	あまりそうでない	22	2.9	4.1	1.8	2.6	1.4	5.7	2.3	---
	ぜんぜんそうでない	3	0.4	0.8	---	0.9	---	---	0.3	3.8
	無答・不明	4	0.5	0.3	0.8	---	0.7	---	1.0	---
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q12_C. 学力差の解消に教師ができること_学力の低い児童に補習をする	とてもそう	206	27.0	25.3	28.5	25.6	30.5	24.0	28.0	23.1
	ややそう	402	52.7	51.5	53.8	53.0	46.8	58.3	51.3	61.5
	あまりそうでない	137	18.0	20.7	15.5	19.7	19.1	15.4	18.4	15.4
	ぜんぜんそうでない	13	1.7	2.2	1.3	1.7	2.8	2.3	1.0	---
	無答・不明	5	0.7	0.3	1.0	---	0.7	---	1.3	---
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q12_D. 学力差の解消に教師ができること_将来の進路・キャリアを考えさせる	とてもそう	195	25.6	28.1	23.3	22.2	22.0	27.4	28.3	15.4
	ややそう	436	57.1	55.1	59.0	53.8	61.7	60.6	54.3	57.7
	あまりそうでない	117	15.3	14.9	15.8	22.2	14.9	10.9	14.8	23.1
	ぜんぜんそうでない	11	1.4	1.7	1.3	1.7	0.7	1.1	1.6	3.8
	無答・不明	4	0.5	0.3	0.8	---	0.7	---	1.0	---
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q12_E. 学力差の解消に教師ができること_保護者に関心と支援をお願いする	とてもそう	329	43.1	40.5	45.5	54.7	46.8	36.6	41.4	34.6
	ややそう	392	51.4	52.6	50.3	41.9	46.1	57.7	53.6	53.8
	あまりそうでない	37	4.8	6.6	3.3	3.4	6.4	5.7	3.6	11.5
	ぜんぜんそうでない	1	0.1	---	0.3	---	---	---	0.3	---
	無答・不明	4	0.5	0.3	0.8	---	0.7	---	1.0	---
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q12_F. 学力差の解消に教師ができること_学校外の地域の人を活用する	とてもそう	149	19.5	20.4	18.8	23.1	19.1	16.6	21.7	---
	ややそう	415	54.4	55.1	53.8	53.8	53.2	60.0	51.3	61.5
	あまりそうでない	171	22.4	20.4	24.3	20.5	25.5	21.1	21.7	30.8
	ぜんぜんそうでない	19	2.5	2.8	2.3	1.7	0.7	1.7	3.6	7.7
	無答・不明	9	1.2	1.4	1.0	0.9	1.4	0.6	1.6	---
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q12_F. 学力差の解消に教師ができること_学校外の地域の人を活用する(具体的に)	回答なし	531	69.6	70.8	68.5	75.2	78.7	65.7	64.8	76.9
	回答あり	232	30.4	29.2	31.5	24.8	21.3	34.3	35.2	23.1
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q13_A. 社会的弱者の救済-教員になる際	全く重要ではなかった	65	8.5	11.8	5.5	8.5	8.5	7.4	9.9	---
	あまり重要ではなかった	239	31.3	30.3	32.3	33.3	27.7	27.4	33.6	42.3
	ある程度重要だった	353	46.3	44.1	48.3	49.6	48.2	49.1	43.1	38.5
	非常に重要だった	96	12.6	13.2	12.0	8.5	14.2	15.4	11.2	19.2
	無答・不明	10	1.3	0.6	2.0	---	1.4	0.6	2.3	---
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q13_B. 社会的弱者の救済-現在	全く重要ではない	16	2.1	3.0	1.3	6.8	2.8	1.1	0.7	---
	あまり重要ではない	68	8.9	10.7	7.3	16.2	9.9	8.6	6.3	3.8
	ある程度重要	410	53.7	50.4	56.8	58.1	58.9	50.9	49.3	76.9
	非常に重要	259	33.9	35.3	32.8	18.8	27.0	38.9	41.4	19.2
	無答・不明	10	1.3	0.6	2.0	---	1.4	0.6	2.3	---
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q14_A. 取り入れているか_障がい者への配慮	とても行っている	278	36.4	38.0	35.0	25.6	29.1	41.1	40.8	42.3
	やや行っている	432	56.6	55.4	57.8	59.8	61.0	56.0	53.9	53.8
	あまり行っていない	41	5.4	5.2	5.5	10.3	8.5	2.9	3.9	---
	ぜんぜん行っていない	5	0.7	0.8	0.5	4.3	---	---	---	---
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

2. 調査結果

		合計		性別		年齢				
		人数(人)	割合 (%)	男	女	29歳以下	30-39歳	40-49歳	50-60歳	61歳以上
		763	100.0	363	400	117	141	175	304	26
	無答・不明	7	0.9	0.6	1.3	---	1.4	---	1.3	3.8
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q14_B. 取り入れているか_異なる文化的背景を持つ人への理解	とても行っている	184	24.1	23.1	25.0	18.8	20.6	27.4	25.7	26.9
	やや行っている	444	58.2	59.0	57.5	59.8	57.4	58.9	58.2	50.0
	あまり行っていない	107	14.0	14.0	14.0	14.5	18.4	12.0	12.5	19.2
	ぜんぜん行っていない	18	2.4	3.3	1.5	6.8	2.1	1.1	1.6	---
	無答・不明	10	1.3	0.6	2.0	---	1.4	0.6	2.0	3.8
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q14_C. 取り入れているか_多様な性への理解	とても行っている	107	14.0	11.8	16.0	17.1	12.8	16.0	12.5	11.5
	やや行っている	395	51.8	54.3	49.5	41.9	52.5	52.0	55.6	46.2
	あまり行っていない	222	29.1	29.2	29.0	30.8	29.8	29.7	27.0	38.5
	ぜんぜん行っていない	29	3.8	4.1	3.5	10.3	2.8	1.7	3.3	---
	無答・不明	10	1.3	0.6	2.0	---	2.1	0.6	1.6	3.8
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q14_D. 取り入れているか_ひとり親家族への配慮	とても行っている	283	37.1	35.0	39.0	35.0	34.8	34.9	40.5	34.6
	やや行っている	401	52.6	53.7	51.5	49.6	55.3	56.6	49.7	57.7
	あまり行っていない	67	8.8	9.9	7.8	14.5	6.4	8.6	8.2	3.8
	ぜんぜん行っていない	4	0.5	0.8	0.3	0.9	2.1	---	---	---
	無答・不明	8	1.0	0.6	1.5	---	1.4	---	1.6	3.8
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q14_E. 取り入れているか_学校の伝統や文化の継承	とても行っている	148	19.4	17.9	20.8	10.3	20.6	17.7	22.4	30.8
	やや行っている	458	60.0	65.8	54.8	65.8	61.0	60.6	59.2	34.6
	あまり行っていない	136	17.8	13.5	21.8	19.7	16.3	20.0	15.5	30.8
	ぜんぜん行っていない	11	1.4	1.7	1.3	4.3	0.7	1.1	1.0	---
	無答・不明	10	1.3	1.1	1.5	---	1.4	0.6	2.0	3.8
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q14_F. 取り入れているか_学校外の資源を活用する	とても行っている	166	21.8	21.8	21.8	14.5	17.7	20.0	27.3	23.1
	やや行っている	448	58.7	63.6	54.3	58.1	60.3	57.7	58.9	57.7
	あまり行っていない	136	17.8	13.2	22.0	26.5	20.6	20.6	11.8	15.4
	ぜんぜん行っていない	6	0.8	0.8	0.8	0.9	---	1.7	0.7	---
	無答・不明	7	0.9	0.6	1.3	---	1.4	---	1.3	3.8
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q14_G. 取り入れているか_持続可能性に関わる活動	とても行っている	102	13.4	14.0	12.8	14.5	12.1	10.9	14.5	19.2
	やや行っている	427	56.0	59.0	53.3	37.6	57.4	58.9	60.5	57.7
	あまり行っていない	202	26.5	24.2	28.5	39.3	26.2	28.0	21.4	19.2
	ぜんぜん行っていない	21	2.8	1.7	3.8	8.5	2.8	1.7	1.3	---
	無答・不明	11	1.4	1.1	1.8	---	1.4	0.6	2.3	3.8
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q14_H. 取り入れているか_職業や人生について考える活動	とても行っている	162	21.2	23.1	19.5	16.2	24.8	24.6	19.7	19.2
	やや行っている	464	60.8	63.9	58.0	51.3	59.6	58.9	65.8	65.4
	あまり行っていない	121	15.9	11.0	20.3	29.9	13.5	16.0	11.8	11.5
	ぜんぜん行っていない	6	0.8	0.8	0.8	1.7	---	0.6	1.0	---
	無答・不明	10	1.3	1.1	1.5	0.9	2.1	---	1.6	3.8
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q15_A. 教育改革への賛否_小学校の教科担任制	とても賛成	241	31.6	38.0	25.8	38.5	29.1	28.6	32.6	23.1
	やや賛成	321	42.1	40.5	43.5	35.9	45.4	45.7	41.1	38.5
	どちらともいえない	135	17.7	12.1	22.8	18.8	17.7	16.6	17.1	26.9
	やや反対	37	4.8	4.1	5.5	5.1	2.8	5.7	5.3	3.8
	とても反対	25	3.3	4.7	2.0	1.7	5.0	3.4	3.0	3.8
	無答・不明	4	0.5	0.6	0.5	---	---	---	1.0	3.8
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q15_B. 教育改革への賛否_アクティブ・ラーニング	とても賛成	215	28.2	31.1	25.5	35.9	22.7	28.6	28.0	23.1
	やや賛成	414	54.3	51.5	56.8	51.3	59.6	56.0	51.6	57.7
	どちらともいえない	121	15.9	15.4	16.3	10.3	17.0	13.7	18.8	15.4
	やや反対	9	1.2	1.4	1.0	2.6	0.7	1.7	0.7	---
	とても反対	0	---	---	---	---	---	---	---	---
	無答・不明	4	0.5	0.6	0.5	---	---	---	1.0	3.8
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q15_C. 教育改革への賛否_カリキュラム・マネジメント	とても賛成	213	27.9	28.4	27.5	31.6	17.7	30.3	31.3	11.5
	やや賛成	405	53.1	52.9	53.3	53.8	59.6	51.4	50.7	53.8
	どちらともいえない	124	16.3	14.6	17.8	12.8	19.1	16.6	15.5	23.1
	とても反対	21	2.8	2.9	2.4	3.3	1.7	2.1	2.4	3.8

		合計		性別		年齢				
		人数(人)	割合 (%)	男	女	29歳以下	30-39歳	40-49歳	50-60歳	61歳以上
		763	100.0	363	400	117	141	175	304	26
	やや反対	9	1.2	2.2	0.3	0.9	1.4	1.1	0.7	7.7
	とても反対	4	0.5	0.6	0.5	---	1.4	---	0.7	---
	無答・不明	8	1.0	1.4	0.8	0.9	0.7	0.6	1.3	3.8
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q15_D. 教育改革への賛否_複数教科等横断的な視点に立つ学習活動	とても賛成	213	27.9	28.7	27.3	35.0	23.4	27.4	28.3	19.2
	やや賛成	403	52.8	51.8	53.8	53.8	52.5	52.0	53.3	50.0
	どちらともいえない	124	16.3	15.4	17.0	8.5	21.3	18.9	14.8	23.1
	やや反対	12	1.6	2.8	0.5	0.9	1.4	1.7	2.0	---
	とても反対	3	0.4	0.3	0.5	---	0.7	---	0.3	3.8
	無答・不明	8	1.0	1.1	1.0	1.7	0.7	---	1.3	3.8
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q15_E. 教育改革への賛否_観点別評価の導入	とても賛成	137	18.0	20.4	15.8	24.8	13.5	17.1	19.1	3.8
	やや賛成	395	51.8	48.5	54.8	50.4	52.5	55.4	51.3	34.6
	どちらともいえない	200	26.2	25.9	26.5	21.4	31.2	24.0	25.0	50.0
	やや反対	18	2.4	3.0	1.8	1.7	1.4	3.4	2.0	7.7
	とても反対	6	0.8	1.1	0.5	0.9	1.4	---	1.0	---
	無答・不明	7	0.9	1.1	0.8	0.9	---	---	1.6	3.8
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q15_F. 教育改革への賛否_データを踏まえた教育課程の編成、実施、評価	とても賛成	121	15.9	17.6	14.3	23.1	10.6	16.6	16.1	3.8
	やや賛成	388	50.9	49.9	51.8	54.7	51.1	48.6	50.7	50.0
	どちらともいえない	219	28.7	28.1	29.3	18.8	34.8	32.6	27.0	34.6
	やや反対	24	3.1	2.5	3.8	2.6	2.8	1.7	4.3	3.8
	とても反対	5	0.7	0.8	0.5	0.9	0.7	0.6	0.3	3.8
	無答・不明	6	0.8	1.1	0.5	---	---	---	1.6	3.8
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q15_G. 教育改革への賛否_社会や保護者などの要望を取り入れる	とても賛成	73	9.6	11.6	7.8	12.0	9.2	8.0	10.2	3.8
	やや賛成	288	37.7	38.3	37.3	42.7	38.3	37.7	36.5	26.9
	どちらともいえない	290	38.0	34.2	41.5	30.8	43.3	40.0	35.9	53.8
	やや反対	83	10.9	11.3	10.5	10.3	6.4	10.9	13.5	7.7
	とても反対	24	3.1	3.9	2.5	4.3	2.8	3.4	2.6	3.8
	無答・不明	5	0.7	0.8	0.5	---	---	---	1.3	3.8
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q16. 宗教教育について（自由記述）	回答なし	308	40.4	38.6	42.0	41.0	48.9	37.1	37.2	50.0
	回答あり	455	59.6	61.4	58.0	59.0	51.1	62.9	62.8	50.0
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q17. 多忙か	とても忙しい	400	52.4	44.9	59.3	46.2	60.3	58.3	49.3	34.6
	かなり忙しい	325	42.6	49.9	36.0	46.2	36.9	38.3	46.4	42.3
	あまり忙しくない	29	3.8	4.1	3.5	6.0	2.8	2.3	3.0	19.2
	忙しくない	4	0.5	0.6	0.5	0.9	---	1.1	---	3.8
	無答・不明	5	0.7	0.6	0.8	0.9	---	---	1.3	---
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q18. これからの小学校教育について（自由記述）	回答なし	353	46.3	46.8	45.8	44.4	56.0	41.7	43.8	61.5
	回答あり	410	53.7	53.2	54.3	55.6	44.0	58.3	56.3	38.5
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q19_1. 性別	男	363	47.6	100.0	---	48.7	53.9	42.3	47.4	46.2
	女	400	52.4	---	100.0	51.3	46.1	57.7	52.6	53.8
	無答・不明	0	---	---	---	---	---	---	---	---
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q19_2. 年齢	29歳以下	117	15.3	15.7	15.0	100.0	---	---	---	---
	30～39歳	141	18.5	20.9	16.3	---	100.0	---	---	---
	40～49歳	175	22.9	20.4	25.3	---	---	100.0	---	---
	50～60歳	304	39.8	39.7	40.0	---	---	---	100.0	---
	61歳以上	26	3.4	3.3	3.5	---	---	---	---	100.0
	無答・不明	0	---	---	---	---	---	---	---	---
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q19_3_1. 勤務校所在地（都道府県）	北海道	58	7.6	9.9	5.5	5.1	5.0	9.1	9.2	3.8
	青森	2	0.3	---	0.5	---	---	---	0.7	---
	岩手	35	4.6	3.6	5.5	2.6	5.7	3.4	4.6	15.4
	宮城	19	2.5	3.3	1.8	2.6	0.7	2.3	3.6	---
	秋田	25	3.3	2.2	4.3	0.9	2.1	2.3	5.6	---
	山形	28	3.7	2.8	4.5	4.3	2.8	2.3	4.9	---

2. 調査結果

	合計		性別		年齢					
	人数(人)	割合 (%)	男	女	29歳以下	30-39歳	40-49歳	50-60歳	61歳以上	
-----	763	100.0	363	400	117	141	175	304	26	
福島	20	2.6	2.5	2.8	1.7	2.1	4.0	2.6	---	
茨城	11	1.4	1.4	1.5	1.7	1.4	1.1	1.6	---	
栃木	35	4.6	5.0	4.3	6.8	5.7	4.0	3.9	---	
群馬	13	1.7	0.3	3.0	---	---	1.7	3.0	3.8	
埼玉	14	1.8	2.2	1.5	2.6	2.8	1.1	1.6	---	
千葉	59	7.7	8.0	7.5	7.7	8.5	10.9	6.3	---	
東京	37	4.8	5.5	4.3	5.1	6.4	6.3	3.0	7.7	
神奈川	7	0.9	0.8	1.0	1.7	2.1	0.6	0.3	---	
新潟	18	2.4	1.7	3.0	0.9	2.8	1.7	2.6	7.7	
富山	10	1.3	1.4	1.3	0.9	3.5	0.6	1.0	---	
石川	7	0.9	0.6	1.3	1.7	0.7	1.7	0.3	---	
福井	6	0.8	0.8	0.8	---	0.7	0.6	1.3	---	
山梨	11	1.4	0.8	2.0	---	0.7	2.3	2.0	---	
長野	9	1.2	1.1	1.3	1.7	---	1.1	1.6	---	
岐阜	18	2.4	3.0	1.8	2.6	---	3.4	2.0	11.5	
静岡	13	1.7	1.9	1.5	0.9	2.8	1.1	2.0	---	
愛知	25	3.3	3.6	3.0	6.8	4.3	2.3	1.6	7.7	
三重	19	2.5	1.7	3.3	3.4	2.8	2.3	2.0	3.8	
滋賀	6	0.8	1.4	0.3	0.9	0.7	0.6	0.7	3.8	
京都	1	0.1	0.3	---	---	---	---	0.3	---	
大阪	8	1.0	1.9	0.3	1.7	2.1	1.1	---	3.8	
兵庫	13	1.7	1.7	1.8	3.4	2.8	1.1	0.7	3.8	
奈良	1	0.1	0.3	---	---	---	---	0.3	---	
和歌山	12	1.6	1.4	1.8	---	4.3	---	2.0	---	
鳥取	9	1.2	1.1	1.3	0.9	0.7	1.1	1.0	7.7	
島根	10	1.3	1.9	0.8	0.9	1.4	1.7	1.3	---	
岡山	32	4.2	4.1	4.3	6.0	2.8	2.9	4.9	3.8	
広島	18	2.4	1.4	3.3	5.1	0.7	2.3	2.3	---	
山口	7	0.9	1.4	0.5	1.7	1.4	0.6	0.7	---	
徳島	16	2.1	1.4	2.8	4.3	1.4	1.7	2.0	---	
香川	3	0.4	---	0.8	0.9	---	1.1	---	---	
愛媛	5	0.7	0.3	1.0	---	0.7	1.1	0.7	---	
高知	2	0.3	---	0.5	---	0.7	0.6	---	---	
福岡	14	1.8	1.7	2.0	1.7	3.5	0.6	2.0	---	
佐賀	19	2.5	2.8	2.3	0.9	1.4	1.1	3.9	7.7	
長崎	25	3.3	4.4	2.3	1.7	4.3	4.0	3.3	---	
熊本	10	1.3	2.2	0.5	0.9	0.7	1.7	1.6	---	
大分	12	1.6	1.1	2.0	0.9	---	2.9	1.3	7.7	
宮崎	7	0.9	1.4	0.5	0.9	1.4	1.7	0.3	---	
鹿児島	19	2.5	2.5	2.5	2.6	2.8	3.4	2.0	---	
沖縄	14	1.8	1.7	2.0	3.4	2.1	1.7	1.3	---	
無答・不明	1	0.1	---	0.3	---	---	0.6	---	---	
-----	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
Q19_3.2. 勤務先_所在地(地方)	北海道	58	7.6	9.9	5.5	5.1	5.0	9.1	9.2	3.8
-----	東北	129	16.9	14.3	19.3	12.0	13.5	14.3	22.0	15.4
-----	関東	176	23.1	23.1	23.0	25.6	27.0	25.7	19.7	11.5
-----	中部	117	15.3	14.9	15.8	15.4	15.6	14.9	14.5	26.9
-----	近畿	60	7.9	8.5	7.3	9.4	12.8	5.1	5.9	15.4
-----	中国	76	10.0	9.9	10.0	14.5	7.1	8.6	10.2	11.5
-----	四国	26	3.4	1.7	5.0	5.1	2.8	4.6	2.6	---
-----	九州	120	15.7	17.6	14.0	12.8	16.3	17.1	15.8	15.4
-----	無答・不明	1	0.1	---	0.3	---	---	0.6	---	---
-----	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q19_4. 学区特性	農林漁業地域	259	33.9	36.4	31.8	24.8	34.8	28.6	38.5	53.8
-----	工業地域	21	2.8	2.8	2.8	6.0	5.7	1.1	1.3	---
-----	都市郊外の住宅地域	314	41.2	38.3	43.8	49.6	41.8	45.1	36.8	23.1
-----	都市中心部の住宅地域	111	14.5	15.7	13.5	12.8	13.5	19.4	12.8	15.4
-----	都市中心部の商業地域	30	3.9	4.1	3.8	4.3	0.7	2.3	6.6	---
-----	その他	22	2.9	2.2	3.5	2.6	1.4	2.9	3.3	7.7
-----	無答・不明	6	0.8	0.6	1.0	---	2.1	0.6	0.7	---
-----	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

		合計		性別		年齢				
		人数(人)	割合(%)	男	女	29歳以下	30-39歳	40-49歳	50-60歳	61歳以上
Q19_4_6. 学区特性_その他	回答なし	9	40.9	25.0	50.0	33.3	50.0	40.0	50.0	---
	回答あり	13	59.1	75.0	50.0	66.7	50.0	60.0	50.0	100.0
	「その他」回答者数	22	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q19_5. 勤務校規模	5学級以下	58	7.6	6.6	8.5	8.5	9.2	2.9	8.9	11.5
	6-11学級	305	40.0	38.8	41.0	31.6	30.5	42.3	45.4	50.0
	12-24学級	326	42.7	43.3	42.3	45.3	48.9	45.7	38.2	30.8
	25-30学級	51	6.7	7.4	6.0	7.7	7.1	7.4	5.6	7.7
	31学級以上	21	2.8	3.3	2.3	5.1	4.3	1.7	2.0	---
	無答・不明	2	0.3	0.6	---	1.7	---	---	---	---
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q19_6. 担任学年	1学年	81	10.6	1.7	18.8	15.4	12.1	10.3	8.9	3.8
	2学年	70	9.2	5.2	12.8	14.5	8.5	9.7	6.6	15.4
	3学年	71	9.3	10.5	8.3	16.2	12.1	11.4	4.6	3.8
	4学年	78	10.2	10.7	9.8	20.5	14.2	8.6	6.3	---
	5学年	71	9.3	9.6	9.0	10.3	18.4	12.0	3.3	7.7
	6学年	68	8.9	12.1	6.0	9.4	20.6	8.6	3.9	3.8
	担任をしていない	236	30.9	41.6	21.3	5.1	4.3	27.4	54.3	42.3
	その他	84	11.0	8.3	13.5	7.7	9.2	11.4	11.8	23.1
	無答・不明	4	0.5	0.3	0.8	0.9	0.7	0.6	0.3	---
		合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
Q19_6_8. 担任学年_その他【再掲】	特別支援	37	4.8	1.9	7.5	3.4	1.4	6.3	4.9	19.2
※「その他」の記述内容をもとにリコード	複式(学年問わず)	15	2.0	2.2	1.8	2.6	5.0	1.1	0.7	3.8
★全体を母数にした割合	養護教諭	4	0.5	---	1.0	0.9	0.7	---	0.7	---
	管理職	9	1.2	2.2	0.3	---	---	1.1	2.3	---
	その他	7	0.9	0.8	1.0	0.9	2.1	---	1.0	---
	無答・不明	12	1.6	1.1	2.0	---	---	2.9	2.3	---
	「その他」回答者	84	---	30	54	9	13	20	36	6
		---	11.0	8.3	13.5	7.7	9.2	11.4	11.8	23.1
Q19_7. 専科の教科担当	担当していない	606	79.4	75.5	83.0	88.9	81.6	76.0	77.6	69.2
	音楽	15	2.0	0.3	3.5	0.9	1.4	2.3	2.0	7.7
	英語	4	0.5	0.6	0.5	---	---	0.6	1.0	---
	理科	46	6.0	9.9	2.5	2.6	4.3	6.9	7.6	7.7
	その他	83	10.9	12.7	9.3	7.7	11.3	13.7	9.9	15.4
	無答・不明	9	1.2	1.1	1.3	---	1.4	0.6	2.0	---
		合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	Q19_7_5. 専科の教科担当_その他【再掲】	国語	1.0	0.1	0.3	---	---	0.6	---	---
※「その他」の記述内容をもとにリコード	社会	10.0	1.3	1.9	0.8	---	2.8	0.6	1.6	
★全体を母数にした割合	算数	16.0	2.1	2.2	2.0	0.9	2.1	2.9	1.6	
	図工	5.0	0.7	0.8	0.5	0.9	---	1.1	0.7	
	家庭科	9.0	1.2	0.6	1.8	0.9	0.7	1.7	1.3	
	体育	6.0	0.8	1.7	---	---	1.4	0.6	0.7	
	書写	6.0	0.8	0.6	1.0	---	0.7	1.1	1.0	
	複数科目	17.0	2.2	2.2	2.3	0.9	2.1	4.0	1.6	
	その他	2.0	0.3	---	0.5	0.9	---	0.6	---	
	無答・不明	11.0	1.4	2.5	0.5	3.4	1.4	0.6	1.3	
	「その他」回答者	83	---	46	37	9	16	24	30	4
		---	10.9	12.7	9.3	7.7	11.3	13.7	9.9	15.4
Q19_8. 役職	校長	76	10.0	16.0	4.5	---	---	---	24.0	11.5
	副校長・教頭	83	10.9	16.0	6.3	---	---	9.1	22.0	---
	主幹教諭	19	2.5	3.3	1.8	0.9	0.7	6.3	2.0	---
	教務主任	63	8.3	8.0	8.5	---	5.7	13.7	9.9	3.8
	その他の主任	247	32.4	26.4	37.8	20.5	44.0	41.7	27.0	23.1
	役職なし	271	35.5	30.0	40.5	78.6	49.6	28.0	14.5	61.5
	無答・不明	4	0.5	0.3	0.8	---	---	1.1	0.7	---
	合計	763	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	

### 3. 自由記述

Q2 現在の子どもの特徴に対して、先生が指導上、特に留意している点はどのようなことですか。

※集計対象763件中、記述あり521件（68.3%）／掲載87件（抽出率：記述あり521件のうち1/6）

- ・全ての子供にわかりやすく話す、説明することです。様々な特性や特徴を持っている子供が多いので、常にそれを意識しています。(29歳以下、女)
- ・授業中、個別に対応できるようフリーの時間をつくる。(29歳以下、女)
- ・前向きな声をかけるようにし、褒めて伸ばせるように指導しています。(29歳以下、女)
- ・よくないことを曖昧にせず、きちんと全体に伝えている。(29歳以下、女)
- ・子どもに寄り添う姿勢で関わる。(29歳以下、女)
- ・個別に対応しているお子さんについては、自己肯定感の低さが気になっています。そのため、できないことよりもできたことに目を向け、認める声かけをしています。(29歳以下、女)
- ・子どもの姿だけでなく、その背景（家庭状況など）を理解すること。(29歳以下、女)
- ・礼儀や挨拶、コミュニケーション力。(29歳以下、女)
- ・子供の思いに共感すること。(29歳以下、男)
- ・基礎学力。課題（問題）意識。(29歳以下、男)
- ・長々と説明しないようにしている。・口で説明するだけでなく、黒板に書くなどしてできるだけわかりやすいようにしている。・全員が聞いているか確認するようにしている。(29歳以下、男)
- ・コミュニティスクールの仕方や人の気持ちなど、ソーシャル的なことを日頃の関わりを通して教える（習い事が忙しすぎて同世代との関わりが少ない子供がいるため）。(29歳以下、男)
- ・話を聞く。(29歳以下、男)
- ・自己肯定感が高まるような、個に応じた指導。(29歳以下、男)
- ・ICTに長けた児童をいかした授業をしている。簡単なことからでも活用できるようにしている。(29歳以下、男)
- ・子供たちのやる気が向上するような声掛けをなるべく行うようにしている。(30-39歳、女)
- ・指導の仕方（すぐに物事を指導するのではなく、原因をしっかりと探る。心理的要因もあるので）。(30-39歳、女)
- ・対応の難しい子供がいるときは、なぜつまずいているのか、原因を探ること。(30-39歳、女)
- ・児童の思いを受け止め、一方的な指導にならないようにすること。(30-39歳、女)
- ・怒られることを恐れ、失敗をしないようにしている子供が多いので、失敗をしたときに次にどうするかを考えさせ、失敗の後の大切さに気付かせています。(30-39歳、女)
- ・1人1人個性があるのは当然のこと。あまり型や教師の枠で押し付けず、その子の個性をどう集団の中で活かすか、人とおりあいをつけるか気をつけている。(30-39歳、女)
- ・叱られなれていない子供が多く、叱られるとそれだけで委縮してしまう子供が多いため、できるだけほめて意欲を持続させている。・幼い頃から情報機器に触れ、情報や活動を与えられてきたからか、自ら考える、探求する、あるもので工夫する力が乏しく集中力も続かないように感じる。活動を細かく区切って飽きないようにメリハリをつけたり、できるだけ実物に触れられたりするようにしている。(30-39歳、女)
- ・個別で対応するようにしている（課題の取り組み方や行動を振り返らせるとき等）。・できていることは具体的に伝えるようにしている。(30-39歳、女)
- ・家庭と密に連絡を取り合い、指導することを共通理解する。・一人一人の子供に合った支援を考える。(30-39歳、男)
- ・時代と共に子供が変化しているため。小さな変容に気付けるようにすること。(30-39歳、男)
- ・現在、6年担任です。運動会、修学旅行があり、行事に追われています。落ち着いて行動できるよ

- うにしています。(30-39歳、男)
- ・学力差に対する支援。(30-39歳、男)
  - ・個への対応。丁寧な見取り。(30-39歳、男)
  - ・一人一人の子どもの話を聞くこと。(30-39歳、男)
  - ・あきらめない姿勢 ・他者を思いやる ・対話(30-39歳、男)
  - ・コミュニケーション。(30-39歳、男)
  - ・学習に対する意欲を高めるために、積極的に発言を促して、教師主導だけにならないようにしている。(30-39歳、男)
  - ・クラス内で活動の進度のズレが大きくなった時に、時間を持って余さないようにプリントなどを用いている。(40-49歳、女)
  - ・一人一人に合った指導。(40-49歳、女)
  - ・子供の話をきちんと聞き、納得のいくように心がけている。(40-49歳、女)
  - ・個別指導、自由な発想を伸ばす、自己肯定感、日常生活、保護者の意向、人間関係の構築(40-49歳、女)
  - ・「自分だけじゃない！」という部分をくみとった指導をしています。つまり、注意されるのが「自分だけ」だと保護者からもなぜ？ といった電話等が来てしまうので、注意する時はその子の言い分を100%聞きとって、そのうえで悪いことをしたと理解させるようにしています。(40-49歳、女)
  - ・個々の学力にあった指導を心がけている。(40-49歳、女)
  - ・特別支援の視点を取り入れています。(40-49歳、女)
  - ・発達に課題のあるお子さんがクラスの中に多いため、指示を短く分かりやすく出したり、上から目線の話し方はしないよう心がけたりしている。(40-49歳、女)
  - ・家庭の状況が一人一人異なるので、そうした状況を自分なりに把握した上で指導を行っている。(40-49歳、女)
  - ・個に応じた対応や指導をしている。(40-49歳、女)
  - ・押し付けにならないようにする。(40-49歳、男)
  - ・子供の自己肯定感を育てること。豊かな人間性を育むこと。(40-49歳、男)
  - ・大きな声を上げないこと。 ・女子児童に個別に

- 指導するときは、人目の付く場所で行うこと。(40-49歳、男)
- ・対話的な学びと、習熟の時間の確保。(40-49歳、男)
  - ・丁寧な説明。保護者への連絡。(40-49歳、男)
  - ・子どもの発達の特性や、発達の過程に沿った指導。(40-49歳、男)
  - ・それぞれの子供の特性を理解し、個に応じた手だてを工夫すること。指導する際も、まずは子供の思いを聴き、受け止めた上で指導すること。(40-49歳、男)
  - ・子ども達の生活環境など実態を良く見つけて指導する。分かる言葉で説明する。(40-49歳、男)
  - ・子の実態に合わせて指導をしている。(40-49歳、男)
  - ・人間関係の構築と、日々の授業を通して成長の実感がある学び。(50-60歳、女)
  - ・後ろの保護者への配慮をしながらの対応。(50-60歳、女)
  - ・個に応じる。(50-60歳、女)
  - ・一人ひとりの個性に応じた指導ができるよう、子供たちの特性を理解できるよう、日々児童理解につとめ、教材研究をしています。(50-60歳、女)
  - ・「ユニバーサルデザイン」を校内で学び、児童の支援方法を考えている。(50-60歳、女)
  - ・少子化で社会的体験が減ってきている。課題に対して自分の考えを持たせ、言える子、よりよい選択の出来る子など、将来生きていく力を身につけさせていきたいと留意している。(50-60歳、女)
  - ・自己肯定感を持たせたい為、本人の良いところを認め伸ばせるようにする。(50-60歳、女)
  - ・傷つきやすい子(俗にいう打たれ弱い子)は、増えているように思う。言葉のかけ方には気をつけている。また、家庭の教育のありかた、考え方に差があるので、注意しながら学習(指導)を進めている。(50-60歳、女)
  - ・落ち着いて学習に取り組めない子供の対応。授業内容を定着させること。人間関係を深めさせること。(50-60歳、女)
  - ・個に合った声掛け。 ・その子供の表れがどこからきているのか、背景を考えるようにしている。



- (50-60歳、女)
- ・個の特性を理解し、個々に合った支援、指導をするように心がけている。(50-60歳、女)
  - ・個々の異なる特性を持つ子供たちが、数十名もの大きな集団の中で、一斉に学習をするので、基礎基本を大切にしている。(50-60歳、女)
  - ・特別支援教育を生かしたユニバーサルデザインの授業、子どもとのかかわり。(50-60歳、女)
  - ・ルールを守らなければならない理由について考えさせている。 ・肯定的評価で学ぶ楽しさを感じさせる。 ・互いを尊重しあう意識を育てる。(50-60歳、女)
  - ・書いた文章や図工作品、体育での動きにいたるまで、全てそのものの本質に照らして教師が助言するものよりも自分がいいと思うものの方が価値がある。教師が「もっとこうすると更に良くなる」と言っても「自分はこのままの方がいいと思う」「自分なりに考えてこうしたのだからこの方がいい」、まだ物心ついて数年の子どもが教師歴30年にもなろうという我々に堂々と言う。無理に従わせぬよう心がけている。(50-60歳、女)
  - ・自己肯定感の低い子が多いように思うので、ほめる、認めるを心がけています。(50-60歳、女)
  - ・集中が持続しないことを配慮して、興味を高められるような展開や時間配分。(50-60歳、女)
  - ・発達障害を持っていると思われる子（診断の有無に関わらず）については、個々に対応を変えている。(50-60歳、女)
  - ・個々の特長に応じた声かけや指導を心がけている。(50-60歳、女)
  - ・将来自立して生活するための教育。一人で生きるのではなく、協力して物事を解決していく力をつけたい。(50-60歳、男)
  - ・ありのままの子供の実態を受け入れ、理解し、子供の自尊感情を育むこと。(50-60歳、男)
  - ・コミュニケーション能力 (50-60歳、男)
  - ・叱ったり、注意をしたりするとき、教員が冷静に叱ったり、注意をしたりした理由を分かりやすく話すようにしている（納得ができるように）。(50-60歳、男)
  - ・本人の思いを理解したうえで、指導する。(50-60歳、男)
  - ・ラポールを形成すること。(50-60歳、男)
  - ・話をよく聞き、考えて行動させる。(50-60歳、男)
  - ・まずは子供の気持ちを理解すること。頭ごなしの指導にならないこと。(50-60歳、男)
  - ・答えが正解か不正解であるか、よりも考える過程やそう考えた理由を大切にしている。支援が必要な児童に、授業中すぐにサポートをしている。(50-60歳、男)
  - ・子どもの特性を考慮に入れて、指導すること。強い指導ではなく、子供に理解させる、納得させるように話をすること。(50-60歳、男)
  - ・子どもの自ら学ぼうとする意欲を大切にすること。(50-60歳、男)
  - ・子どもの意思の尊重。(50-60歳、男)
  - ・行動を指導する際、どうしてしたのかその背景にある気持ちなどを聞くように心がけている。(50-60歳、男)
  - ・毎時の理解度を個別に確立しながら指導を行っている。また、各教科での意欲を高めたり、主体的に学ぶことができるよう努めている。(50-60歳、男)
  - ・以前に比べると、大目に見て（規律などがゆるくなっている）指導するようになった。 ・「先生や友達の話を最後まで聞く」ことの大切さを指導している。(61歳以上、女)
  - ・個別指導。(61歳以上、女)
  - ・その子の実態を把握し、手だてを配慮すること。(61歳以上、男)

Q9-G 学校以外の場で子どもの学力に差を生じさせる要因として、次のことは影響していると思いますか。

G その他（具体的に書いてください）

※集計対象763件中、記述あり97件（12.7%）／掲載32件（抽出率：記述あり97件のうち1/3）

- ・やるき（学習の必要感）があることだと思います。（29歳以下、女）
- ・家庭環境（一緒に勉強を見てくれるか等）（29歳以下、女）
- ・生まれながらの能力もあるが、それに適した学習、教育ができていないかが非常に大切。学校だけでなく、家庭でもきちんと見ていかないとどうしようもなく、落ちこぼれてしまう子が出てきてしまう。適切な進度、速度を選ばせてあげたい。（29歳以下、男）
- ・生活の中で家庭以外の人としゃべる機会の差。（29歳以下、男）
- ・家庭における学習習慣が確立していない。集中力にも影響してくる。（29歳以下、男）
- ・学習したいと思う場面があること、時間があること、仲間がいることは影響していると思います。（30-39歳、女）
- ・学校（教師）ができることには限界があり、地域の方だからこそ学べることもあると思う。（30-39歳、女）
- ・宿題等の家庭学習に、保護者がどれだけ目や手をかけてくれるかによって、差が生じていると思う。特に、低中学年において、家庭学習への保護者のフォローは大きい。（30-39歳、女）
- ・養育環境（親子がともに過ごす時間、愛情を受ける時間）（30-39歳、男）
- ・保護者の子供との関わり、時間等（どれだけ案内に目を通してくれるか）。（30-39歳、男）
- ・子供の環境、貧困などあり、学習できるような環境にいられない子もいる。（40-49歳、女）
- ・生活環境（40-49歳、女）
- ・小学校入学前にどれだけ保護者が子供に働きかけているかは（声掛け、手をかけているか）大きな差となる。スマホにお任せでは、学習に対する意欲もわかないと思う。Q8について、学力の差は入学当初からもうついています。（40-49歳、女）
- ・家庭での学習の習慣や環境も大切だと思います。早寝、早起きができている子は、朝からだるそうにあくびが目立ちます。（40-49歳、女）
- ・家庭学習に親が関わっているか、いないか。（40-49歳、男）
- ・学力以前に養育能力や経済力の差が学力にも関連している。（40-49歳、男）
- ・ゲーム、動画の視聴時間。家庭内における教育環境の差。睡眠時間。（40-49歳、男）
- ・家庭の所得がB、C、D、Eにつながると思う。鹿児島県の所得中央値は300万円台／年。（40-49歳、男）
- ・子供を取り巻く環境（特に経済力）。（50-60歳、女）
- ・身の回りのことを自分でできる（しようとする）能力。経験（実体験）量。基本的な生活習慣を保護者がどれだけ気をつけているか。保護者が子どもとどれだけ語り合った時間を過ごしているか。（50-60歳、女）
- ・家庭環境（三世同居、核家庭であるなど）。（50-60歳、女）
- ・保護者と子どもの関わり。（50-60歳、女）
- ・生活にゆとりがあるかどうか。（50-60歳、女）
- ・子供自身の学習への意欲や姿勢の差。（50-60歳、女）
- ・子供のしつけ、姿勢、集中、我慢強さ（50-60歳、女）
- ・家計の支出で、教育費が高い家庭は学力が高い傾向にある。（50-60歳、男）
- ・早期にスマホを与えること。ネットゲームへの没入。（50-60歳、男）
- ・保護者の経済力。（50-60歳、男）
- ・保護者等が子供に過干渉になって、先回りして手助けをし、失敗を糧に成長する習慣がなくなっているように感じる。（50-60歳、男）
- ・家庭環境が安定していること。自己肯定感や他者との関わり方の経験が豊かなこと。（50-60歳、男）
- ・子供自身のやる気をどう高めるか。（50-60歳、男）
- ・家庭環境（61歳以上、女）

Q12-F 子どもの学力の差を解消するために教師ができることとして、どのようなことがあると思いますか。

F 学校外の地域の人を活用する (Fについて具体的に書いてください。)

※集計対象763件中、記述あり232件 (30.4%) / 掲載58件 (抽出率: 記述あり232件のうち1/4)

- ・地域に学ぶ場をつくる。(29歳以下、女)
- ・地域ボランティアによる放課後の学習支援等。(29歳以下、女)
- ・地域の人の方が詳しく教えられることもあると思うから (農家、スポーツ選手、助産師など)。(29歳以下、女)
- ・大学生をボランティアとして個別支援に活用する。(29歳以下、男)
- ・ボランティア (補習時等) (29歳以下、男)
- ・地域の方の話を聞く、交流する。(29歳以下、男)
- ・退職教員、保護者 (29歳以下、男)
- ・人権教育の観点から、大切なことだと思うが、教師 (学校) がしっかり理解したうえで行うべきだと思う。(30-39歳、女)
- ・放課後クラブなどで、わからないところを教えてもらえる場があるとよい。(30-39歳、女)
- ・学童や放課後に子供を預かる施設を中心にサポートをお願いする。(30-39歳、女)
- ・ボランティアで学習の補助や取り出し児童の見守り (指導は×) をしてくれることもある。(30-39歳、女)
- ・ゲストティーチャーを招いて授業する。(30-39歳、男)
- ・キャリア教育として地域の人へのインタビューや職業の紹介。 ・ボランティアによる放課後教室。(30-39歳、男)
- ・地域人材の積極的な活用と確保。(30-39歳、男)
- ・ボランティアの方を使った放課後学習。(30-39歳、男)
- ・放課後に地域の人が学習や遊ぶ場を見守るスペースがあるとありがたい。(40-49歳、女)
- ・放課後の補習教室など。(40-49歳、女)
- ・家庭科の実習に保護者ボランティアを募る。(40-49歳、女)
- ・子育てが終わった方で元気な方、大学生など。(40-49歳、女)
- ・発達障害があり、読み上げるサポートなどをしてもらえると助かる。(40-49歳、女)
- ・Dに関して、自分の将来を見つめることができるような機会を設けるためには良いと思う。(40-49歳、女)
- ・寺子屋など。(40-49歳、女)
- ・スクールサポーター (40-49歳、女)
- ・地域の人材活用 (畑、太鼓など) (40-49歳、女)
- ・放課後学習プログラムなど。(40-49歳、男)
- ・現状ではまだ、効果があまり得られない割に手続きやアフターケアの手間が大きすぎる。(40-49歳、男)
- ・サポーターを入れる。(40-49歳、男)
- ・放課後クラブのようなボランティアで、子供たちに教えて下さる人がいるとよいのでは。(40-49歳、男)
- ・ボランティア (40-49歳、男)
- ・有償による放課後学習等。(40-49歳、男)
- ・放課後、宿題を見てあげる。(50-60歳、女)
- ・本の読み聞かせ、習字等、ボランティアでしていただける人がいれば。(50-60歳、女)
- ・英語や総合など、その分野に力のある人を活用する。(50-60歳、女)
- ・放課後補習を希望する児童がいる場合、地域の方に補習を行っていただけると良いのではないかと思います。(50-60歳、女)
- ・地域の人とのかかわりは、コミュニケーション力の育成、キャリア教育、郷土愛を育む教育など、たくさん意味を持ち、地域に見守られている実感は、子供たちの自己肯定感を高めると思う。(50-60歳、女)
- ・学校や公民館などで希望する児童の学習をみる。ただし、必要のある児童や保護者が希望しないという課題があります。(50-60歳、女)
- ・学習ボランティアの拡充。退職教員の利用。(50-60歳、女)

- ・学校外の人を招くほど学校の負担はむしろ増す。向こうは全エネルギーをもってそれにかかれるが、こちらにはそれ以外にもすることが山のようにある。(50-60歳、女)
- ・定着させたい力、理解させたい点にしぼって指導するという点が、外部の方をまじえての活動では、どうしてもぼやけてしまいがちになる。(50-60歳、女)
- ・個別支援をサポートしてくれる人(信頼のおける人で)(50-60歳、女)
- ・放課後に学習をする時間を保障に指導員として来てもらう(人材の確保)。(50-60歳、女)
- ・学習ボランティアさんの活用(無料、有料どちらも)。(50-60歳、女)
- ・月曜の放課後、土曜日午前地域の方が来て、学習支援をしてくれた。学校に勤務したことがありますが、プリント、解答すべて学校が用意したので、職員の負担が大きく大変でした。地域の方に全一任というのは難しいのではないかと思います。(50-60歳、女)
- ・放課後等に地域で学習で困難な箇所をサポートしていただく。(50-60歳、女)
- ・子供のプライバシーの問題がある。(50-60歳、男)
- ・教師経験者や特技のお持ちの方。(50-60歳、男)
- ・子供食堂や学習サポートのボランティア。(50-60歳、男)
- ・習熟度や補習に関しては、人手と時間の不足がある。有償のサポーターを配置する。(50-60歳、男)
- ・退職教員、保護者(50-60歳、男)
- ・大学生の休み中の学習サポートや、ボランティア(PTA)により、長期休業中の学習サポート(〇つけ)など。(50-60歳、男)
- ・地域の教育力(大学との連携)の活用。(50-60歳、男)
- ・キャリア教育等で協力を願う。(50-60歳、男)
- ・学童、放課後教室、若い学生(50-60歳、男)
- ・時と場によるが専門的知識を持った人で、子どもの視点で物事を考えられる人にサポートしてもらう。(50-60歳、男)
- ・実技を伴う教科でのサポート。(50-60歳、男)
- ・地域人材にもばらつきがある。学習に必要な助言や指導ができる人であるかの見極めが必要である。(50-60歳、男)
- ・ゲストティーチャーにお話を聞くのは得るものが多いと思う。(61歳以上、女)
- ・地域の施設の訪問。(61歳以上、男)

**Q16** 平成18年の教育基本法の改正で、「宗教に関する一般的な教養」という言葉が追加されました。学校教育における宗教教育に関して、どのようにお考えですか。

※集計対象763件中、記述あり455件(59.6%)／掲載91件(抽出率：記述あり455件のうち1/5)

- ・外国籍の児童も増えてきており、宗教上の関係で活動に制約がある時もあるので、多様性を認めるためにも、ある程度の基本的な知識、教養を養っておく必要はあると考える。(29歳以下、女)
- ・あまり深く考えていない。(29歳以下、女)
- ・グローバル化にともない、様々な宗教を信仰する人と関わるのが日常化しているため、「一般的な教養」は他者理解の視点からも必要であると考え。(29歳以下、女)
- ・宗教に関して触れにくい風潮がある。教材もカリキュラムもない。けれど、やるべきだと思う。(29歳以下、女)
- ・宗教については、教え方が難しそうであると感じています。(29歳以下、女)
- ・子供たちは素直なので、間違った知識でも信じてくれます。なので間違ったことを言わないように浅い知識で話をしないように、気をつけないといけません。(29歳以下、女)
- ・学習指導要領に記載されていること以上も以下もするべきではない。なぜなら、私は公立学校に勤めているため。(29歳以下、男)
- ・特に考えていません。(29歳以下、男)
- ・必要性は感じない。(29歳以下、男)
- ・基本的な宗教ごとの思想などを知る上では必要と

- 考える。(29歳以下、男)
- ・様々な宗教があること (知識のみ)。(29歳以下、男)
  - ・様々な宗教を信仰する人がいる中で、最低限の知識は持つておくべきなのかなと思う。例えば食べ物に関することなど。(29歳以下、男)
  - ・あまり干渉すべきではない。(29歳以下、男)
  - ・「特定の立場をとらない」というのがなかなか難しいとも感じる。気づかないうちに偏っているような内容になっていないか心配だが、多様性という点でそれぞれの宗教の簡単な決まりや違いを学習するのは大切だと思う。(29歳以下、男)
  - ・知識として教える必要があることは教えるが、偏りがあってはいけない。(30-39歳、女)
  - ・特定の宗教に偏った教育はすべきではないが、偏見をなくすために一般的な知識は教えても良いと思う。(30-39歳、女)
  - ・あまり熱心に学習するのはどうか。知識として知る分でいいと思う。(30-39歳、女)
  - ・正直深く考えられていない。(30-39歳、女)
  - ・多様な価値観の一つとして、抽象的に考えていきたい。(30-39歳、女)
  - ・よくわからない、知らない。(30-39歳、女)
  - ・あまり考えたことがない。(30-39歳、男)
  - ・特に考えてはいなかった。(30-39歳、男)
  - ・一般的な指導しかしないので、特別な必要感、不要感はないです。(30-39歳、男)
  - ・様々な考え方があるということを教える必要はある。決めるのはその子自身。(30-39歳、男)
  - ・一般的な教養を身に付けることは必要だと考えます。(30-39歳、男)
  - ・多様な考えを認める。(30-39歳、男)
  - ・宗教とかにとらわれず、その人自身を見るという心の育成が大切だと思う。(30-39歳、男)
  - ・社会の学習に関連して、特に日本古来の神道の考えなどは、学習していかないと被差別部落についての指導が難しいと感じています。(30-39歳、男)
  - ・外国籍の児童も一緒に学ぶことがあるので、宗教による習慣の違いなどを理解させることは大切だと思う。(40-49歳、女)
  - ・偏らない範囲で様々な宗教について触れさせるこ
- とは、他者理解につながるのよいと思う。(40-49歳、女)
- ・あまり深く指導できない。しない方がよい。(40-49歳、女)
  - ・各家庭における考え方も大きいところだと思うので、学校教育の中で扱うときには丁寧に扱う必要がある。(40-49歳、女)
  - ・宗教ではなく「善悪、道徳」を教え、実行できるようにしていきたい。宗教の自由が認められ、宗教的差別がないことを絶対にしていきたい。(40-49歳、女)
  - ・必要があれば行う。現時点では必要ない。(40-49歳、女)
  - ・宗教と歴史と文化は深く結びついているので、日本だけじゃなく、世界の国々の歴史や文化を学ぶ上で、正しく理解していくことが重要であると考ええる。(40-49歳、女)
  - ・衣、食、住に関することなど、外国籍の児童を理解することを深めるために行うのがよい。(40-49歳、女)
  - ・特に考えていない。(40-49歳、女)
  - ・いろいろな人がいるので、取り扱うことはとても難しい。(40-49歳、女)
  - ・公教育において、どの程度どのような内容になるのかによる、ので何とも言えない。(40-49歳、女)
  - ・歴史の流れに沿った理解。(40-49歳、女)
  - ・個々の教え (宗教) がある中で、宗教等によって差別されないという法の下に平等の「憲法」とどう結びついていくかと考える。(40-49歳、男)
  - ・個人、家庭において自由なものであるので、宗教とはどんなものか程度の周知はできる。(40-49歳、男)
  - ・一人一人の考え方は自由。(40-49歳、男)
  - ・職場に宗教に関する問題が出たときに考える。(40-49歳、男)
  - ・様々な宗教が存在するが、果たして教育の中で必要性を感じない。また、日本国憲法と照らし合わせた際に、どこまでが「一般的な教養」なのか、まだ自分でも理解できていない。(40-49歳、男)
  - ・他国や他者理解につながる一つの視点として、一般的な教養としての理解をすすめることには賛成

である。(40-49歳、男)

- ・特定の思想を重視せず、あまり触れすぎない方が  
良い。(40-49歳、男)
- ・学校では特定の宗教に偏ることなく、どの宗教に  
おいても人々の幸せを願っており、インクルーシ  
ブな視点を育てることが大切である。歴史的背景  
等から生じる争いは、いかなる場合も許されるべ  
きではなく、和解への道筋を探ることが大切。  
(40-49歳、男)
- ・特に関心はない。(40-49歳、男)
- ・宗教教育に関しては、こちらの知識や認識も不足  
しているところもあるので、積極的には行いたく  
ないというのが本音である。(40-49歳、男)
- ・特に意識していない。(50-60歳、女)
- ・必要ない。(50-60歳、女)
- ・深く踏み込むべきではないが、それぞれの宗教に  
対し、敬意を持つことについては指導したいと考  
える。(50-60歳、女)
- ・知識としては必要だが、深入りできない部分であ  
ると考える。(50-60歳、女)
- ・教員自身の中にある一定の宗教に心酔している方  
もおられ、職務外で迷惑をこうむったことがある。  
日本は多宗教である国であることから、教育へと  
いうのは疑問を感じる。(50-60歳、女)
- ・宗教というものが人間にとってどういうものかを  
理解することは、平和教育に必要だと考える。  
(50-60歳、女)
- ・実際行うにはデリケートな部分もあるのでは？  
熱心に活動されている方からみると…。(50-60  
歳、女)
- ・宗教は色々な考えがあることや、信仰の自由につ  
いては伝えてもよいと思う。(50-60歳、女)
- ・様々な思想がある中、バランスは必要。(50-60歳、  
女)
- ・その人の信じている神仏を否定しない。どの人が  
何を信じていても良い社会でありたい。(50-60歳、女)
- ・特定の宗教をクローズアップしないようにする必  
要がある。(50-60歳、女)
- ・各宗教について、内容を知らせる程度で良いと思  
う。(50-60歳、女)
- ・偏った考え方を教えてはいけませんが、一般的な教

養は必要。(50-60歳、女)

- ・偏った宗教を取り上げることは心配です。(50-60  
歳、女)
- ・とても難しい問題であると思う。(50-60歳、女)
- ・宗教教育は家庭ですべき。(50-60歳、女)
- ・宗教教育は実施していない。(50-60歳、女)
- ・6年歴史の学習で、江戸時代に日本に入ってきた  
キリスト教について取り上げた。その際にキリス  
ト教はこわいもの、というイメージがあることを  
知り、正しい知識を教えることが必要だと感じた。  
(50-60歳、女)
- ・個人の思想に関わることであり、教育現場では  
深く扱わず、紹介程度で良いのではないかと思っ  
ている。(50-60歳、女)
- ・多様な宗教があること。(50-60歳、女)
- ・宗教に関しての客観的な理解は必要。(50-60歳、  
男)
- ・それぞれに良さがあることをとらえさせる。(50-  
60歳、男)
- ・その歴史的な側面の学習は必要と思う。(50-60  
歳、男)
- ・多種多様な考えが保護者にはあるので、深くかか  
わらないようにすべき。(50-60歳、男)
- ・とても難しい問題だと思います。(50-60歳、男)
- ・国際化された社会で生きていく子ども達にとって、  
文化や宗教を理解することはとても大切なことで  
あると思うが、偏りが出ないように配慮しなけれ  
ばいけないと思う。(50-60歳、男)
- ・取り立てて取り上げると、信教の自由に触れてし  
まうことがあるので、マナー程度の内容であれば、  
指導の中に入れても良い。(50-60歳、男)
- ・世界的に見れば必要。(50-60歳、男)
- ・基本的には公教育とは切り離しておいた方が良い。  
(50-60歳、男)
- ・一般的とはどこまで？(50-60歳、男)
- ・様々な考え方があることに気づくため必要。(50-  
60歳、男)
- ・発達段階に応じた指導が必要。(50-60歳、男)
- ・様々な宗教があることは知識として教えるとい  
いが、深く入ることは不安。(50-60歳、男)
- ・小学校の高学年では、ある程度の教養が必要だと

- 考える。(50-60歳、男)
- ・異文化理解の観点からも、ある程度は必要。少なくともタブー視すべきではない。(50-60歳、男)
- ・それぞれの成り立ち、歴史的観点など、知識として学ぶことは重要だと考える。(50-60歳、男)
- ・宗教的な内容は教育上必要であるが、特定の宗教を支持したり、反対したりすることはいけない。(50-60歳、男)
- ・公立学校にはやや抵抗感があると思われる。(50-60歳、男)
- ・個々の宗教や考えを認め合うことが大切だと考えている。(61歳以上、女)
- ・特に必要ない。(61歳以上、男)
- ・宗教を否定的に考えるのはよくないが、特定の宗教を尊ぶのは公立学校ではふさわしくないと考えます。(61歳以上、男)

Q18 これからの小学校教育のあり方に関して、あなたのご意見をご自由にお書きください。

※集計対象763件中、記述あり410件 (53.7%) / 掲載135件 (抽出率：記述あり410件のうち1/3)

- ・1クラスの人数を減らすなど、子供たち一人一人をしっかりと見守ることのできる環境を整えていくことが大切ではないかと思います。(29歳以下、女)
- ・コロナ禍の中で公務員という職業は安定しているはずなのに、なぜ教員を目指す人が少ないのだろうと、教員になる前の素朴な疑問でした。やはり教員になって分かったことは、一人担任に対しての仕事量が多すぎるのも1つの要因なのかと考えました。小学校教育のあり方として、もう少し教員1人1人が休める時間の確保が必要だと考えます。(29歳以下、女)
- ・近年、教育においても、ICT（一人一台端末の導入）等、急激に変化しているように感じます。そうした変化に対応できるように学び続けなければいけないと感じています。(29歳以下、女)
- ・1クラスあたりの人数を減らして、もう少し子供一人ひとりと関わる時間が増えれば良いなと思います。(29歳以下、女)
- ・〇〇教育が日に日に増えていくが、減るものがないので教師の負担、学習する子どもたちの負担が増大しているように感じる。キャリア教育やプログラミング教育は、現行の教育課程にプラスされるのではなく、他のものにとって代わるものであってほしい。何でもかんでも学校で教えるべきではないと思うし、小学校では知識を詰め込むものではなく、学び方を学ぶ場だと思うので、もっとゆとりのある教育課程であってほしい。(29歳以下、女)
- ・子どもだけではなく、保護者の方にも様々な人がいるのだなと感じています。家庭への協力をお願いしたいけど、あまり手が回らない家庭もあります。同じように教育を受けさせてあげたい気持ちは教師として常にありますが、保護者をお願いすることも難しいと思うと、学校で何とかしないといけないのかと負担になることもありました。教えることが増えていくと、教師の方が手が回らなくなってくると思います。(29歳以下、女)
- ・もっと自分が人として生きることを楽しめる毎日になるように、働き方改革を進めていくべきだと思う。(29歳以下、女)
- ・小学校でのタブレット導入によるICT教育の導入はとても良いと思います。個人情報の管理など、様々な問題もありますが、便利なものなので、さらにICT整備が進むといいと思います。・小学校高学年の学習内容は、難しくなるため、高学年の教科担任制が導入されるといいなと思います。(29歳以下、女)
- ・授業準備をする時間があまりになく、いつも不完全燃焼のような気持ちを持っているので、副担任制や教科担任制にしたい。少人数指導で学力を上げたいので、そのような制度が整うといいなと感じている。(29歳以下、女)
- ・もう少し子どもと向き合える時間が欲しい。(29歳以下、女)
- ・学習面では、学力の向上に向けて、カリキュラム、

マネジメントや授業の工夫、情報教育の導入が必要であることを感じている。しかし、児童にとって心の教育はとても大切なことであり、生涯必要な内容であるため、道徳教育やキャリア教育等、相手の立場や自分の大切さを考えることにも力を入れて、教育していくべきだと思った。(29歳以下、女)

- ・コミュニケーション能力が低い児童が増え、お互いの意見を言えずに勝手な思い込みでトラブルになることがある。教育活動を通して、コミュニケーションスキルやソーシャルスキルが高まる教育活動も必要だと考える。また、タブレット教育も進んできているため、友達との関わりや視力の低下なども心配である。 ・教科担任制を行い、いろいろな先生方で児童一人一人を見ていくことも必要である。(29歳以下、男)
- ・スクールサポートスタッフの増員が必要。 ・若手の先生方や教職志望者が熱意や希望をもって働ける環境や社会づくりが必要。 ・UD化の推進(自治体レベル)が必要。(29歳以下、男)
- ・子供のやる気をいかに引き出すかに重きを置くべきです。やることを強制して成果が出たとしても、長い目で見て本人の成長につながるとは思いません。 ・子供の失態を学校に押し付けないでください。まず先生方が人目を気にすることを最優先して行動するようになり、それを見る子供もそうなくなっていきます。「あなた一人が悪さをすると「〇〇小学校の子は…」とみられてしまいます」というフレーズを聞くと、息が詰まりそうです。「大人が地域がそういう見方をしているよ」と子供に教えるから、偏見が生まれるのだと思います。 ・「あり方」以前に教育予算と人員を増やさないと現場が潰れます。何とか回している、ではなく、すでに回っていません。(29歳以下、男)
- ・個別指導は必要だが、すべてを下に合わせると上が育たなくなる。常に下位の子を中心に考えることはとても危険。(29歳以下、男)
- ・保護者との関わり、関係が大切になってくる。(29歳以下、男)
- ・このようなアンケートは即刻なくすべき。データの活用意図が不明で、時間の無駄。現場は忙しい

ので来年度からなしにしていきたい。(29歳以下、男)

- ・こども第一の教育を行っていくべき。(29歳以下、男)
- ・基礎学力を身につけさせると同様に、私は仲間をつくることも学力(生きる力)だと考えています。仲間と協働して、問題を解決する体験を増やすことが大切であり、そのような場を設定することが大切であるとする。(29歳以下、男)
- ・時間外労働を減らし、ワークライフバランスを整える必要があると思う。また、保護者の要望について、聞き取る必要もあると思うが、できないことや間違っていることははっきりと伝えていくことが大切だと考える。(29歳以下、男)
- ・やることの選定。 ・時間外労働への配慮(時間や給与面)。 ・人員の確保。(29歳以下、男)
- ・学校、家庭、地域が関わり合いながら、良い教育をしていければと思う。(30-39歳、女)
- ・自分たちが学んでいた学校とはどんどん違うことが入ってきて、専門性を求められるのはとてもつらいです。教員になる際、それができる人間を育てて欲しいです。なってから言われても…。(30-39歳、女)
- ・子供たちの環境と、学校教育の理想にずれがあると思う。私も教師の仕事しかしたことがないので、どうしても理想論ばかり押し付けてしまう。教員も社会の情勢を知るべきである。 ・学力も大切だが、子供たちが今しかできないことを思いっきりさせてあげることが大切! たくさん友達と関わったり、意見をぶつけあったり(時にはけんかすることも大切と思う)、思いっきり遊んだり。意外と子供の様子って遊んであげることでわかることも多い。(30-39歳、女)
- ・学校教育で行わなければならないことが、どんどん増える一方で、人員の増加などがかわらず、負担ばかりが増えている。保護者、子供も多様化する中、もっと柔軟な人に対応できるようにならないといけないと思うので、それが実現できるように現場の状況をもっと知ってもらいたいです。(30-39歳、女)
- ・担任している学級に個別支援が必要な児童が多い。



- 今後ますます多様な子が増えてくると考えられるため、個に応じた指導、支援のあり方をもっと考えたい。(30-39歳、女)
- ・自分自身の考え方を経験値や固定概念にこだわらず、柔軟にして児童、保護者と関わっていく必要があると感じる。 ・踏襲すべきこととそうでないことを区別して働き方を考えていくことが必要だと感じる→これまでの業務内容が減ることはないが、新しいことが増えている気がする。(30-39歳、女)
  - ・担任がかかえる業務の選択と集中を進めていくこと。(30-39歳、女)
  - ・タブレット端末が導入されているが、あまり活用できていないと感じる。今後、効果的な場面で取り入れていきたい。(30-39歳、女)
  - ・仕事量の削減をしたいが、子供たち一人ひとりに向き合うためには、ある程度の時間も必要。支援してもらえる体制が(丸付けなど)もっとあればよいと思う。 ・教科書でも指導を基本としているが、学力テストなどに活用できる内容が入っていないので、長文などに生かせる力を身につかせていくことも必要だと思う。(30-39歳、女)
  - ・家庭、地域、学校の役割をそれぞれ明確にする必要がある。これまで学校では家庭、地域の役割を担い過ぎていた。(30-39歳、男)
  - ・教職員を希望しない人、教職に就いても離れてしまう人が年々多くなっていると感じている。そのため「誰にもできる教育活動」を日々目指している。専門的な知識や技能は必要ではあるが、学校体制として市町村体制として、ある一定の指針やスタンダードが明確にあると、初めて教職に就いても安心して教育活動を行うことができるのではないか。そうすることで、教職を希望する人も増えて、現在我々が「とても忙しい」と感じることも軽減されるのではないかと考えている。(30-39歳、男)
  - ・みんなが安心して楽しく生活できる場であってほしい。(30-39歳、男)
  - ・先の見えない未来に対し、しっかりと基礎、基本をおさえた上で、友達と共同的に討論したり、話し合ったりしながら、発展的な課題に取り組んでいく力がさらに求められると思います。そのためにも教員はしっかりと研修を積めるような環境を整えていく必要があると思います。(30-39歳、男)
  - ・家庭と協力して学習生活の基礎を身に付ける。基本的知識以外は、体験、話し合いなどを通して諸能力を育む時間とし、自分で解決して生きていく人に育てる。知識は必要に応じて学ぶようになる。(30-39歳、男)
  - ・忙しくなっているのは、一人当たりの業務量が多いこと。 ・学校教育にも地域人材や学習支援サポーターなどを十分確保した上で、その業務量を減らしてほしい。 ・指導が難しくなる児童が多い中で、新しい試みもたくさん入ってくる。教員になりたいと思う人も少なくなつて、(やる気のある)教員の質が低下しているというのも納得できる。(30-39歳、男)
  - ・仕事内容がかなり広範囲になってきているので、授業研究に使う時間が短くなっています。業務改善のためにも、人を増やし(教員等)、ゆとりをもって子どもと向き合えるようになっていけばと思っています。(30-39歳、男)
  - ・子どもの教育を全て学校で行うのではなく、地域、家庭と連携し、同じ目的、目標をもって子どもと関わっていくことが大切。(30-39歳、男)
  - ・もう少し現場で自由に取り組めるようにしてほしい。(30-39歳、男)
  - ・人が足りていないということが昔からわかっているにもかかわらず、その場しのぎを続けた結果が今だと思っています。このようなアンケートを実施し、わかった気になるより、人を一人でも増やした方が解決に向かうと思いますが。(30-39歳、男)
  - ・多忙化の解消。業務量の削減に取り組まなければ、成り手がいなくなってしまうという危機感を抱いています。(30-39歳、男)
  - ・教師の数を増やすことが大切であると思う (ICT、英語の得意な人なども)。また、給料が下がるとより優秀な人材の確保が難しくなり、教育の低下につながるので、給料を上げるべきだと思う。人事評価により給料を決めると校内での協力ができないという話もよく聞く。そのためそれはやめるべきだと思う。(30-39歳、男)

- ・小学校に期待されること、任されることが多すぎる。現場の教師の困り感や混乱が行政に届いていない。業務を適切に仕分けし、小学校が本来担うべき内容に集中できるようにしたい。子どもの主体性を育むために、教員も主体的に業務に取り組めるようにしたいが、こなすことが多く、浅く流れてしまいがちである。(40-49歳、女)
- ・学級経営という概念から脱却し、「学年経営」を具体的に推進していくこと。・教科担任制の推進（「働き方改革」以外の、子供にとってもメリットが大きいことが広く伝わって欲しい）。(40-49歳、女)
- ・なぜ学習するのか。生きるため→自分が一人でも生きるためではなく、誰かの役に立つことが「幸せに生きる」こと。だから才能を磨く、という基本を伝えたい。(40-49歳、女)
- ・いろいろな立場の人のことを考えて指導にあたらないといけない。共生という視点を大切にしている。家庭環境も様々である。配慮が必要で多様化しているが、誰もが安心できる学校であるべきと考えている。(40-49歳、女)
- ・児童の個性を尊重するためには、1クラス20人以下にし、LDや発達障害のある児童の学習支援のための人員を増やしてほしいです。(40-49歳、女)
- ・子供たちが伸び伸びと、生き生きと過ごせて行けるような小学校教育を行っていきたい。子供や保護者に寄り添い、学校が楽しいと思える子がたくさん増えるべきだと思う。(40-49歳、女)
- ・教員が時間にも心にも余裕を持って指導に当たれることが、とても大切だと思います。とにかく現場は多忙すぎです。保護者もわが子に対する責任を持ってほしいです。(40-49歳、女)
- ・文部科学省からやるべきことがおりにきすぎて、現場はとても疲弊している。教員が忙しすぎて、気持ちのゆとりを持って子供に接することが難しい。又、勤務についても働き方改革がうたわれているものの、業務内容が変わらない中、改革は難しい。これ以上（道徳の教科化、外国語の教科化、ICT、プログラミング等）やることを増やさないで欲しい。多様化する子どもたちへの対応を柔軟

- にしていくためには、人材配置とカリキュラムの削減にメスを入れなければ、何も変わらないどころかますます現場は大変になるだけだと思う。(40-49歳、女)
- ・人員を増やして、たくさんの目で力でやれる教育環境になるとよいと思います。(40-49歳、女)
- ・子どもが自由に過ごせる（遊べる）時間を確保できる下校時刻の設定により、放課後の充実が必要だと思う。・教師の業務削減により、十分な教材研究の時間の確保ができるようになってほしい。十分な教材研究、授業準備の上で、よりよい授業ができるようになるべきである。(40-49歳、女)
- ・学校教育に求められることが多すぎて、子どもにゆっくりと関われない。大人になるのって楽しそう、早く大人になりたいな、大人っていいな→このローモデルに教師自身がなれるよう、楽しく豊かに学ぶことができるとよいと思う。(40-49歳、女)
- ・多忙化が少しでも解消されるような手立てがあるとよい（調査、書類、パソコン事務処理、会計等）。(40-49歳、女)
- ・何でも引き受けてしまっている印象。必要のないものは省いていって効率化していってほしい。(40-49歳、女)
- ・外国語など専門知識が必要なものは、教科担任制として行うことに賛成である。担任が忙しく、授業の準備に費やす時間がなければ、学級の子は授業がつまらないと荒れてしまう。授業を充実できるような研修会に参加できたり、時間的余裕、心理的余裕を持てるようにして、小学校生活における学習の部分をもう少し充実させられるとよいと思う。(40-49歳、女)
- ・児童数が減ってきているが、教員の多忙化は減っていない。1学級20人以下にし、教員の数を増やしてほしい。・子どもの人数が1クラスあたり減っていけば、子どもへの目も届きやすい。(40-49歳、女)
- ・子どもも教員も楽しい教育でありたいと思っています。(40-49歳、女)
- ・教科担任制の導入に関しては職員の人数によることも大きいので、実態に合わないところもあり、

難しい面も感じる。(40-49歳、女)

- ・幼児期から、中学校、高等学校と学びを一本としてとらえ、子供の発達段階、実態に合わせてカリキュラムを変えていく必要がある。現行学習指導要領をもっと理解する。地域の特性もあるので、弾力的な考え方も必要である。小学校は保育園、中学校との連携をより密にして、つけたい力をつける教育課程を実施していくとよいのではないかと。(40-49歳、女)
- ・小学校にかかわらず、教師の多忙感を減らさなければ、子供に対していい教育はできないと思っている。教師も子供も余裕をもって過ごしていきたい。(40-49歳、男)
- ・教科教育や生徒指導を通して、人としての見方、考え方を育てる。(40-49歳、男)
- ・学習に対する基礎、基本の徹底。 ・よりよく生きるための力を育む。 ・自分の考えを持ち、それを伝える力。以上のことが大切だと考えます。(40-49歳、男)
- ・質の高い教育を進めるために、働き方改革を力強く進める必要があると感じている。具体的には①教員の業務量を減らす、②人員を増やす、の2点が必須であると考えている。(40-49歳、男)
- ・時代がどんどん変化し、教育の在り方も様々、見直すべき時が来ている。しかし増やすだけではすべてがうまくいかない。何かを取り入れたら、何かを捨てる。その視点がとても重要だと思う。現場の教職員は皆、本当によく頑張っている。その頑張りが続くように、働き方も見直す必要がある。大幅な削減と改革、やるべきことの厳選が求められている。(40-49歳、男)
- ・教員の数を増やし、知識(教育技術)の伝達のシステムをつくる必要がある。(40-49歳、男)
- ・働き方改革の推進とともに、教師としての仕事の楽しさや魅力を社会全般に発信することで、次の教育界を担う人材を集め、育てていくことで優秀な指導者を確保する。学校教育の充実には、環境の整備とともに有能な人材が欠かせないと考える。(40-49歳、男)
- ・働き方改革を進める。小学校専科の教員を配置。1クラス複数の教員配置。上記を進めることで教

育の充実を図る。(40-49歳、男)

- ・学校の意義を大切にし、集団生活でしか得られない人との関わりを大切にしていきたいです。協働的な学び、達成感を味わわせる。(40-49歳、男)
- ・免許更新制度は多忙感解消にかなり寄与すると考える。学校の規模により、分掌の仕事量もかなり変化するため、日々の授業準備ができるよう、仕事内容や行事、課外活動などは前年度踏襲だけではなく、整理や見直しをしていく必要。(40-49歳、男)
- ・必要のないものの削減。学級の人数を減らす。教師になりたいと思う人が増えないと、苦しいと思います。(40-49歳、男)
- ・幼・小・中・高のキャリア教育の系統性、発展性を各校種で共有し、各校種での教育の質を向上させることが大切であると思います。(40-49歳、男)
- ・30人学級を導入することにより、1校の教員の数が増え、分掌の仕事も減り、子供を見る目も増えると思う。ぜひ実施して欲しい。(40-49歳、男)
- ・教科担任制を定着させる必要があると思います。今までの学級担任制では対応できない問題が増えているため、複数の教員で子供たちを指導できる教科担任制はとても有効だと考えます。(40-49歳、男)
- ・多様な発達や考えの子供が増えてきている中で、すべての子供たちに対応し、指導していかなければならないと感じている。また、ICTの導入により、その分野においても教師が学び、より効果的な活用を目指していく必要がある。(40-49歳、男)
- ・塾でもなく家庭でもない学校の役割を自覚する(共に学ぶ、遊ぶ、活動する)。(40-49歳、男)
- ・Society 5.0に向けて、指導内容の精選が必要だと思います。同時に教員の指導力向上も必要です。(50-60歳、女)
- ・先生たちは日々努力をしています。先生たちが時間と心に余裕をもって子ども達と十分に向き合えるための環境づくりが大切だと思います。学習ももちろん大切ですが、子ども同士の関わり、先生と子どもの関わり、先生と保護者との関わりが、今大切にされなければならないと感じます。(50-60歳、女)

- ・差をうめることやチャンスを広げてあげる取り組みをできたらと思う。学力の保障のために学ぶ習慣をつけたい。(50-60歳、女)
- ・地域との連携も考え、全て小学校で行うのではなく、学校教育の内容をもっと厳選すべきだと考えている(働き方改革にも通じてくると思う)。(50-60歳、女)
- ・多様性に応じていかねばならない。違いを受け入れ、また日本人としての誇りを持つ子の育成が進んで欲しい。(50-60歳、女)
- ・学校教育と家庭教育、社会教育、どのように連携していくのか。…課題として議論していきたい。今は何でもかんでも学校に…という感じがする。(50-60歳、女)
- ・1. 子どもが主体的に学ぼうとする主体性を育てる。 2. 授業の中で自分の考えを伝えたり、友達との対話を通して自分の考えを広げたり、新たな気付きを得たりすること(コミュニケーション能力の育成)。 3. 各教科で学んだ知識を自分の生活と関連づけて問題解決できるようにすること(問題解決能力の育成)。 4. やるべきことは最後までやり遂げる粘り強さを育てること。確かな学力=生きる力。小学校教育は人間形成の基礎となる場だと考える。(50-60歳、女)
- ・ゆとりがあってもよい。ゲームソフトやゲームアプリの悪影響がととても気になる。制限して欲しい。(50-60歳、女)
- ・働き方改革が取り上げられているが、調査、報告物等が精選されない限り、本当の意味での仕事や業務の精選がなされないので、現場内での改革には限界がある。 ・個別支援の必要な児童が増えているので、職員数を増やしていただかないと対応が厳しい状況になっている(学校の規模によらない)。(50-60歳、女)
- ・夢のある学校生活を送れるようにしたい。(50-60歳、女)
- ・英語もタブレットを使った教育もと言われ、現場はアップアップです。朝の7:30~夜7:30まで、まったく休憩もなく働き、教材研究もままならない今の現状を何とかして下さい。教科専門の職員を配置するなど、少しでも現場の負担を減らすこ

とが、充実した小学校教育へとつながると思います。(50-60歳、女)

- ・子どもの学力をつける・伸ばすためには、教師の専門性を生かせるよう幅広い人材(人の数も含めて)が必要である。外国語や調理等、ゲストティーチャー等気軽な活用ができるような工夫があるとありがたいです。(50-60歳、女)
- ・就学前の育てられ方が、その後に影響するようになってきている。幼保との連携をさらに図っていきたい。タブレットや英語も大事だが、小学校では体験や人との関わり、読んだり鉛筆で書いたり、話したりする活動をやはり重視していきたい。(50-60歳、女)
- ・子供たちが前向きで夢を持った日々を送れるようにしたいと思う。教師が多忙で、児童と関わる時間が取れていないが現実。改善していけるようにしたいが、あまりにカリキュラムが多岐にわたってきた昨今においては、難しいと思う。(50-60歳、女)
- ・何でも〇〇教育として、学校に押し付けるのは無理だと感じる。 ・教員になりたいと考える若者が減って、教師の質が下がることも懸念される。小学校は基本の学習を学ぶところ、友人関係を学ぶところに絞るべきだと考える。(50-60歳、女)
- ・小学校では、学担と子どもたちの接する時間が多い。それだけに、よりよく児童理解ができたり、保護者との連絡が取りやすかったりするなどのメリットがある。一方で、担任一人で諸問題(対児童、対保護者)について、抱え込みやすいなどの問題もある。トイレにもなかなか行けない現状もある。それゆえ、教師の増員によって児童にも教師にも応援してもらえる存在の人が増えることができれば、きめ細やかな支援もでき、心強い。(50-60歳、女)
- ・基礎、基本の定着に徹底し、あれこれやらねばならないこと(ICT活用、地域教材、総合的学習等)を増やさない。基礎教科の教科書レベルの事柄の定着を一つのラインとする(全国学力テストでは、教科書より高度なものばかり。上を見すぎて現場に負荷がかかっている)。(50-60歳、女)
- ・教育の大切さを世の中に認めてもらいたいです。

- あまり多くを望まず、学級集団の中で年齢相応の生活や学習ができる状況でありたいです。子供時代を子供らしく。(50-60歳、女)
- ・家庭教育、社会教育との線引きをして学校教育を充実させたい。(50-60歳、女)
  - ・教師が熱心に指導するのは当然。しかし、何もかも学校で教えるのはちがう。担任一人が抱え込むのではなく、複数の教師が指導を行ったり、複数担任制も必要。さらに専門家や地域の力も必要。(50-60歳、女)
  - ・家庭教育と保護者との連携とが混ざっている。学校がすべきことも構造化、シンプルを目指すべき。(50-60歳、女)
  - ・ICTの活用が日常化されていく。タブレット端末の持ち帰りが進む。(50-60歳、女)
  - ・学校と保護者、地域の方の連携が大切。コロナ禍でなかなか人との交流が難しい時代だが、本来のあるべき姿へと戻していきたい。(50-60歳、女)
  - ・クラス担任1人での指導ではなく、2人くらいいないと子どもたちの見取りができなと思っています。クラス内の和を乱してしまう子ども、一斉指導の授業についてこれない子ども、個々への指導、配慮は今後もっと増えてくとも思います。(50-60歳、女)
  - ・デジタル化が進んで時代の変化を痛感している。スキルアップは大事だが、「子供は宝」愛情と情熱をそそぐことを第一に考えてほしい。そのうえで、自己肯定感が持てる子供たちを育ててほしい。(50-60歳、女)
  - ・働き方改革と言われるが、実質的な仕事量が減らなければ無理だと思う。定員を増やすなどして、教員一人一人にゆとりが生まれると、質の高い教育につながると思う。(50-60歳、女)
  - ・子どもが忙しい毎日を過ごしている。学習内容が多すぎる。削減するとよいと思う。(50-60歳、女)
  - ・あまりに忙しすぎて、授業の用意やノートチェックや指導案作成などは、家で夜中にやっています。専科の授業中も気になる子がいるとサポートにあたるため、勤務時間内に仕事が終わることがありません。仕事量を減らして、普通の勤務時間にしないと、採用試験を受ける人も減り、教員の質の低下が起こると思います。勤務条件を良くしていくことが、大切だと思います。(50-60歳、女)
  - ・①コミュニティスクールを充実させ、学校、地域、保護者と連携し、子どもを育てていく体制を現在作っているの、今後が大切。②誰もがカリキュラムマネジメントできるように教師の力量をアップしていかなければいけない(管理職の資質、能力の低下)。③教科の枠をこえて、資質、能力をベースにした教育を行い、総合的な学習の時間のように探求していくことで、子どもがよくなっていくと思う。④国がもっと教育にお金をかけるべきだと思う。そうすることで教育充実、人材確保、環境整備できる、教員希望者が増加する。→負担軽減。(50-60歳、女)
  - ・教師が授業に集中できる学校が理想です。今は子育て全てが学校に任されています。地域の力、保護者の力、その他の力を活用すべきだと思います。(50-60歳、女)
  - ・子供一人ひとりを大事に教育していくのであれば、1クラスの人数を最大20人程度にすべきではないだろうと思う。また、働き方改革と聞かけれど、現場に入ってくる内容は増えるばかりで減るものが少ない。IT機器を使ったり、教科以外の指導も多くなったり、将来を見通してのキャリアパスポート作成だったり、特別な支援の必要な児童に対しての、支援計画作成したりするなど、新しいことに対応していくための研修を常に行うように思う。授業力を身につけるための研修に回す時間も限られ、早く退勤しても持ち帰った仕事を自宅で遅くまでしている現実がある。(50-60歳、女)
  - ・グローバル化(50-60歳、男)
  - ・教師の仕事はよくブラックと言われます。働き方云々と言われていますが、なかなかよい方向に向きません。「こどものため」と言われている時代もありますが、多忙化により心身ともに病に陥っては、良い指導をすることができないのが現状です。全国で倒れている教員が多いと聞きます。この課題はなかなか解決の糸口が見つからず、残念である。(50-60歳、男)
  - ・学習内容、指導法等の変化が大きく、かつ増加す

る傾向があり、教職への魅力と負担感において、負担感が大きくなる心配を感じている。(50-60歳、男)

- ・学習内容の補充、定着、個人差に伴う指導等をする時間が足りない。(長期休業ではなく毎日のこと、授業時数、指導内容の縛りがあるからだと思う。) →①授業日数を増やすこと。(夏休み、春休みの短縮、14日程度) ②総合的な学習の時間を30時間～70時間以上とし、学校で判断させる。
- ③キャリア教育等、専門の職を持つ者が指導する(専科として)。(50-60歳、男)
- ・小学校に教科担任制をしただけにして欲しい。(50-60歳、男)
- ・教員の研修がとても大切である。(50-60歳、男)
- ・児童一人一人の学力保障に対して、教師が責任を持って取り組むべきと考える。また、教師に対する支援も必要であるため、行政、地域にもして欲しい。(50-60歳、男)
- ・人を増やして欲しい。(50-60歳、男)
- ・多様な教育のニーズにこたえて、対応していくことが求められていますが、読む、書く、話すなど初等教育で大切にされてきたものを、見失ってはいけないと思います。基礎、基本がしっかりしていないと、上に積み上げていくことはできません。(50-60歳、男)
- ・経済格差の解消。 ・本来の義務教育の理念(水準の維持、公民、生きる力)を全国均一に。 ・日本の将来を生き抜く見通しを持った実効ある教育の推進。 ・教育予算の倍増。(50-60歳、男)
- ・教師のやるべきことを減らす。(50-60歳、男)
- ・小学校は特に「地域の学校」として、それぞれの学校の特色が出しやすく、教育課程の工夫をすることで、地域の教育コンテンツを十分に活用しながら、大きな教育効果を生むことができる。それぞれの学校におけるこれらの教育活動を積極的に交流、共有し、知見を高めていくことができると良い。 ・OECD調査を受けての全国学調に、国も自治体も多大な労力をかけるのではなく、学校それぞれの強みをさらに伸張するような施策に、予算や労力をかけるべき時期に来ていると考える。(50-60歳、男)

- ・将来に希望を持てるような教育。 ・自分の国の歴史に誇りを持てるような教育。 ・判断力、決断力の育成。 ・自己の確立を目指し、他者受容のペースとなる心を育成する。(50-60歳、男)
- ・特別支援対象児の割合が高まり、1人1人に対する適切な支援、配慮を行うことが求められている。しかし、現実としては難しく、少人数学級の実現や人手の確保等、理想だけでない具体的な手立てが必要。(50-60歳、男)
- ・心の教育の充実。 ・特別支援教育、人権教育が学校経営の中核となる。(50-60歳、男)
- ・政府や地方自治体の本気で家庭の教育力を高める施策をしないと、学校教育は困難の一途をたどることになる。小学校としては、子供たちが自ら学びに向かい、今求められる学力を伸張させていくように努力したい。家庭の教育力が低下している中、道徳の授業を柱に、日々生活の中で「普通」の人間性を身につけさせたい。(50-60歳、男)
- ・自立に向けて発達段階に応じた基礎能力を育む場所。英語教育やプログラミング学習など、社会の変化に対応する教育は必要であるが、その基本となる力を鍛えるべき。必要な状況になれば英語であれ他の技能であれ、何歳であろうが勉強する。学びに取り組む姿勢、学び甲斐、達成感、人との関わり方、チャレンジ→失敗と課題→改善したチャレンジ、を身に付けること。これが備われれば、自分で解決し自立していける。その基礎を小学校で身に付けさせたい。情報技術等の進歩で実体験が減少していく。効率も重視される。だからこそ、自然や各種活動、人との交流を十分確保し、人としての心、感性を育てるべき。英語の教科化により、英語嫌いな子が目立ってきた。中学校での学習内容が前倒しされ、小学校に降りてきた印象を受ける。3、4年の英語活動で興味を持って、高学年の英語科により、意欲は下がってしまう。また、小中で授業改善しても、高3では受験対策の英語となる。高校入試、大学入試が変わらなければ受験英語からの脱却はできない。(50-60歳、男)
- ・本当にいろいろなものが入り、子どもたちも成長が難しい子もいる。大変と思う。優秀な職員が不

- 足している。(50-60歳、男)
- ・自分の勤務校で感じることは、入学したばかりの子たちの差（配慮すべき子）が大きく、担任一人での一斉指導が困難な場面がみられます。一つの学級を複数の教師で指導したり、少人数学級（20人程度）で指導したりと、行政的な支援力が不可欠だと言えます。特に、特別支援学級の人的サポートも不足気味です。(50-60歳、男)
  - ・子供たちの自己実現を支援する場として考えている。自己肯定感、自己有用感を味わう体験を数多くさせたい。(50-60歳、男)
  - ・働き方改革は大切だが、行き過ぎた合理主義が横行して、本当に大切なことまでが切り捨てられてしまう危機感がある。教師の質の低下も否めない。教育改革だ、OJTだと現場には様々なことが求められるが、本当に大事なことは昔からやっている。あれもやれ、これもやれではなく、じっくりと取り組みたい。(50-60歳、男)
  - ・専科を導入して、高学年の担任の負担を減らしたい（北海道は導入が遅れている？）。1学級の人数は最大30名（理想は25名）にして欲しい。一人一人をじっくり育てていかないと、成長していくと社会的に対応できない児童が増え、問題が起きる（ニート、フリーター、発達支援系など）。(50-60歳、男)
  - ・学習内容を精選し、ゆとりある時間割編成ができるとよい。(50-60歳、男)
  - ・一定レベル以上の授業を行うのには、6校時まで授業がある今の状況では、準備時間が少ない。(50-60歳、男)
  - ・児童の人権を大切にすることは大切であるが、我慢したり人間関係を築くための様々な体験も必要ではないだろうか。(50-60歳、男)
  - ・新しい社会の流れにもついていけるように。
    - ・将来、自己決定していけるよう、学力をつける。また何事にも意欲的に取り組むことができるように。
    - ・自分とは異なる他者を理解できるように。
    - ・生命尊重。(61歳以上、女)
  - ・個を大切にされた教育が行われる一方で、共に生きる、関わり合って生きていくことへの対応力も必要となっていくのではないかと思っています。関わりの教育を一番行うことができるのは、小学校時代ではないかと考えます。(61歳以上、女)
  - ・総合的な学習の時間は小学校では取り扱わない。
    - ・教員を増員し、複数担任制を取り入れる。(61歳以上、男)

## ■研究・執筆メンバー

武内 清 (上智大学名誉教授・敬愛大学客員教授)	1章
浜島 幸司 (短期大学講師)	1章・2章
黒河内 利臣(武蔵野大学非常勤講師)	3章・14章
西本 裕輝 (琉球大学教授)	4章
馬居 政幸 (静岡大学名誉教授)	5章
伊藤 静香 (帝京平成大学准教授)	6章
黄 順姫 (筑波大学教授)	7章
大島 真夫 (東京理科大学准教授)	8章
山口 泰史 (帝京大学助教)	9章
腰越 滋 (東京学芸大学准教授)	10章
谷田川 ルミ(芝浦工業大学教授)	11章
佐野 秀行 (大阪人間科学大学准教授)	12章
鈴木 秀男 (台東区教育委員会非常勤)	13章
新井 郁男 (上越教育大学名誉教授)	15章
加藤 幸次 (上智大学名誉教授)	16章
岡崎 友典 (放送大学客員教員)	

## ■事務局

三光 穰 ((公財) 中央教育研究所所長)	
伊藤 育夫 ((公財) 前中央教育研究所所長)	
佐藤 美和子((公財) 中央教育研究所)	
種田 心吾 (編集担当：(株)リーブルテック)	